

3.2 自然的状況

(1) 大気質、騒音、振動、悪臭、気象等の状況

ア 気象

対象事業実施区域周辺の気象観測所は、熊谷地域気象観測所及び寄居地域気象観測所である。

熊谷地域気象観測所及び寄居地域気象観測所における過去 10 年間の気象の状況は表 3.2-1 に、令和 2 年の気象の状況は表 3.2-2 及び図 3.2-1 に、同じく風配図は図 3.2-2 に示すとおりである。

熊谷地域気象観測所における平成 23 年～令和 2 年の平均気温は 15.7℃、最高気温は 38.9℃、最低気温は-5.0℃、平均風速は 2.5m/s、平均降水量は 1286.7 mmである。

また、令和 2 年の平均気温は 16.2℃、最高気温は 39.6℃、最低気温は-5.2℃、平均風速は 2.4m/s、最多風向は西北西、年間降水量は 1364.0 mmである。

寄居地域気象観測所における平成 23 年～令和 2 年の平均気温は 14.4℃、最高気温は 38.2℃、最低気温は-7.4℃、平均風速は 1.7m/s、平均降水量は 1306.5 mmである。

また、令和 2 年の平均気温は 14.8℃、最高気温は 39.2℃、最低気温は-7.3℃、平均風速は 1.5m/s、最多風向は西北西、年間降水量は 1360.0 mmである。

表 3.2-1(1) 気象の状況(熊谷地域気象観測所：過去10年間)

年	気温 (°C)			平均風速 (m/s)	最多風向	降水量 (mm)
	平均	最高	最低			
平成23年	15.4	39.8	-4.6	2.5	北西)	1324.5
平成24年	15.1	37.8	-5.6	2.7	北西)	1079.0
平成25年	15.6	39.3	-4.8	2.7	北西)	1251.0
平成26年	15.3	38.8	-4.7	2.6	北西)	1387.5
平成27年	16.0	38.6	-4.6	2.5	北西)	1335.0
平成28年	15.9	37.3	-5.7	2.4	北西)	1301.0
平成29年	15.4	37.8	-5.3	2.6	西北西)	1308.5
平成30年	16.4	41.1	-5.3	2.4	西北西)	1056.0
令和元年	16.1	38.4	-4.3	2.6	北西)	1460.5
令和2年	16.2	39.6	-5.2	2.4	西北西)	1364.0
平均	15.7	38.9	-5.0	2.5	—	1286.7

注)「) 」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱うことを示す。

出典：「過去の気象データ検索」(令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ)

表 3.2-1(2) 気象の状況(寄居地域気象観測所：過去10年間)

年	気温 (°C)			平均風速 (m/s)	最多風向	降水量 (mm)
	平均	最高	最低			
平成23年	14.0	39.2	-7.3	1.7	西北西	1595.0
平成24年	13.7	37.1	-8.2	1.8	西北西)	1218.5
平成25年	14.3	38.9	-7.7	1.8	西北西)	1105.0
平成26年	13.9	38.0]	-8.2	1.8	西北西)	1398.5
平成27年	14.6	38.3	-6.1	1.6	西北西)	1226.0
平成28年	14.6	37.3	-7.4	1.6	西北西)	1192.5
平成29年	13.9	36.5	-7.1	1.7	西北西)	1238.0
平成30年	15.0	39.9	-8.5	1.6	西北西)	1082.5
令和元年	14.7	37.8	-6.3	1.7	西北西)	1649.0
令和2年	14.8	39.2	-7.3	1.5	西北西)	1360.0
平均	14.4	38.2	-7.4	1.7	—	1306.5

注1)「] 」は、統計を行う対象資料が許容範囲を超えて欠けていて、値そのものを信用することはできず、通常は上位の統計に用いないが、極値、合計、度数等の統計ではその値以上（以下）であることが確実である、といった性質を利用して統計に利用できる場合があることを示している。

注2)「) 」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱うことを示している。

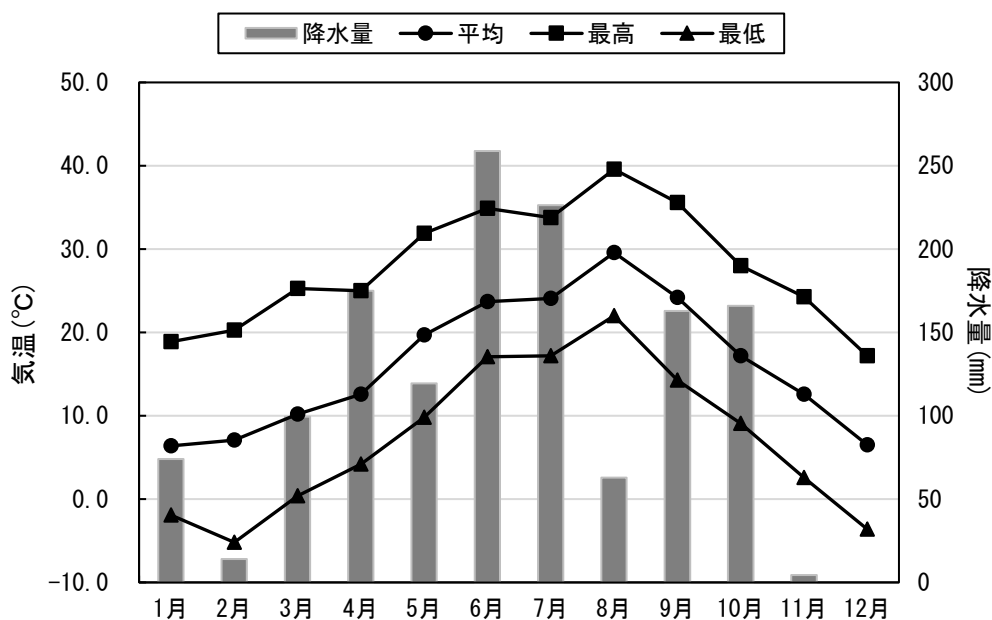
出典：「過去の気象データ検索」（令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ）

表 3.2-2(1) 気象の状況(熊谷地域気象観測所：令和2年)

月	気温(°C)			平均風速 (m/s)	最多風向	最大風速		降水量 (mm)
	平均	最高	最低			風速(m/s)	風向	
1月	6.4	18.9	-1.9	2.6	西北西	9.3	西北西	74.0
2月	7.1	20.3	-5.2	2.9	西北西	10.4	北北西	14.0
3月	10.2	25.3	0.4	3.0	西北西	11.9	西北西	99.5
4月	12.6	25.2	4.2	3.2	西北西	12.7	北西	175.0
5月	19.7	31.9	9.8	2.3	東	8.6	北西	119.5
6月	23.7	34.9	17.1	2.2	東南東	12.1	北北西	259.0
7月	24.1	33.8	17.2	1.7	東	9.3	西	226.5
8月	29.6	39.6	22.0	2.2	東	8.4	南東	63.0
9月	24.2	35.6	14.3	2.0	東	6.7	南東	163.0
10月	17.2	28.0	9.1	2.0	西北西)	7.7	北西	166.0
11月	12.6	24.3	2.6	2.3	西北西	11.1	北西	4.5
12月	6.5	17.2	-3.6	2.4	北西	12.9	西北西	0.0
年間	16.2	39.6	-5.2	2.4	西北西)	12.9	西北西	1364.0

注)「) 」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱うことを示す。

出典：「過去の気象データ検索」(令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ)



出典：「過去の気象データ検索」(令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ)

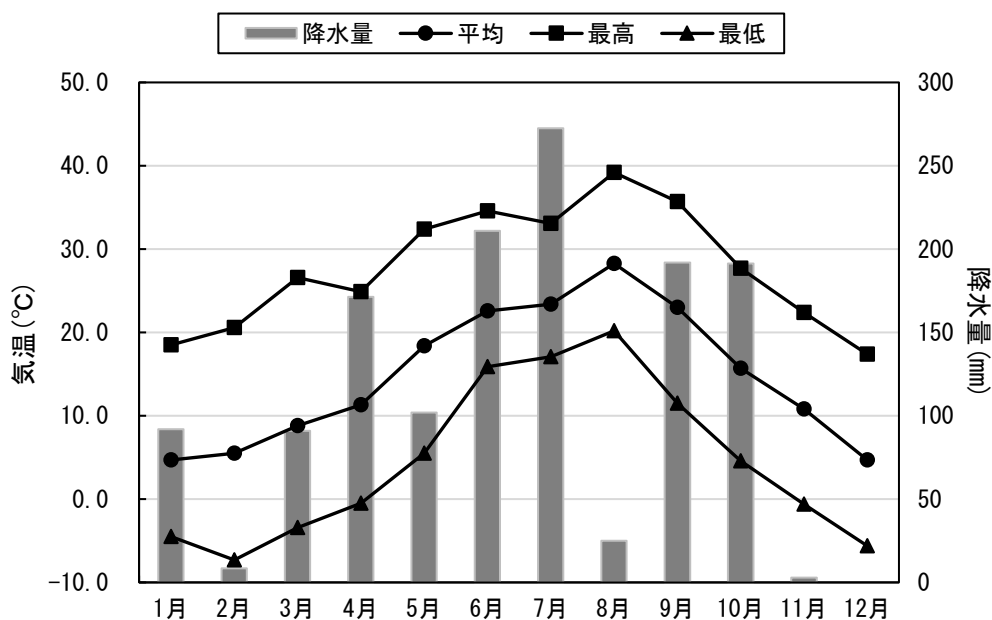
図 3.2-1 (1) 気温及び降水量の状況(熊谷地域気象観測所：令和2年)

表 3.2-2(2) 気象の状況(寄居地域気象観測所：令和2年)

月	気温 (°C)			平均風速 (m/s)	最多風向	最大風速		降水量 (mm)
	平均	最高	最低			風速(m/s)	風向	
1月	4.7	18.5	-4.5	1.8	西北西)	10.9	西	92.0
2月	5.5	20.6	-7.3	1.9	西北西)	8.3	北西	8.5
3月	8.8	26.6	-3.4	2.1)	西北西)	11.1)	西	91.0
4月	11.3	24.9	-0.5	2.1	北西	9.3	北西	171.5
5月	18.4	32.4	5.5	1.4	南東	6.8	北西	102.0
6月	22.6	34.6	15.9	1.2	南東	5.2	東南東	211.0
7月	23.4	33.1	17.1	0.9	南東	7.0	北西	272.5
8月	28.3	39.2	20.2	1.2	南東	6.4	北西	25.0
9月	23.0	35.7	11.5	1.1	南東	9.2	西南西	192.0
10月	15.7	27.7	4.6	1.2	西北西	6.5	北西	191.5
11月	10.8	22.4	-0.6	1.6	西北西	8.8	北西	3.0
12月	4.7	17.4	-5.6	1.8	西	11.8	北西	0.0
年間	14.8	39.2	-7.3	1.5	西北西)	11.8	北西	1360.0

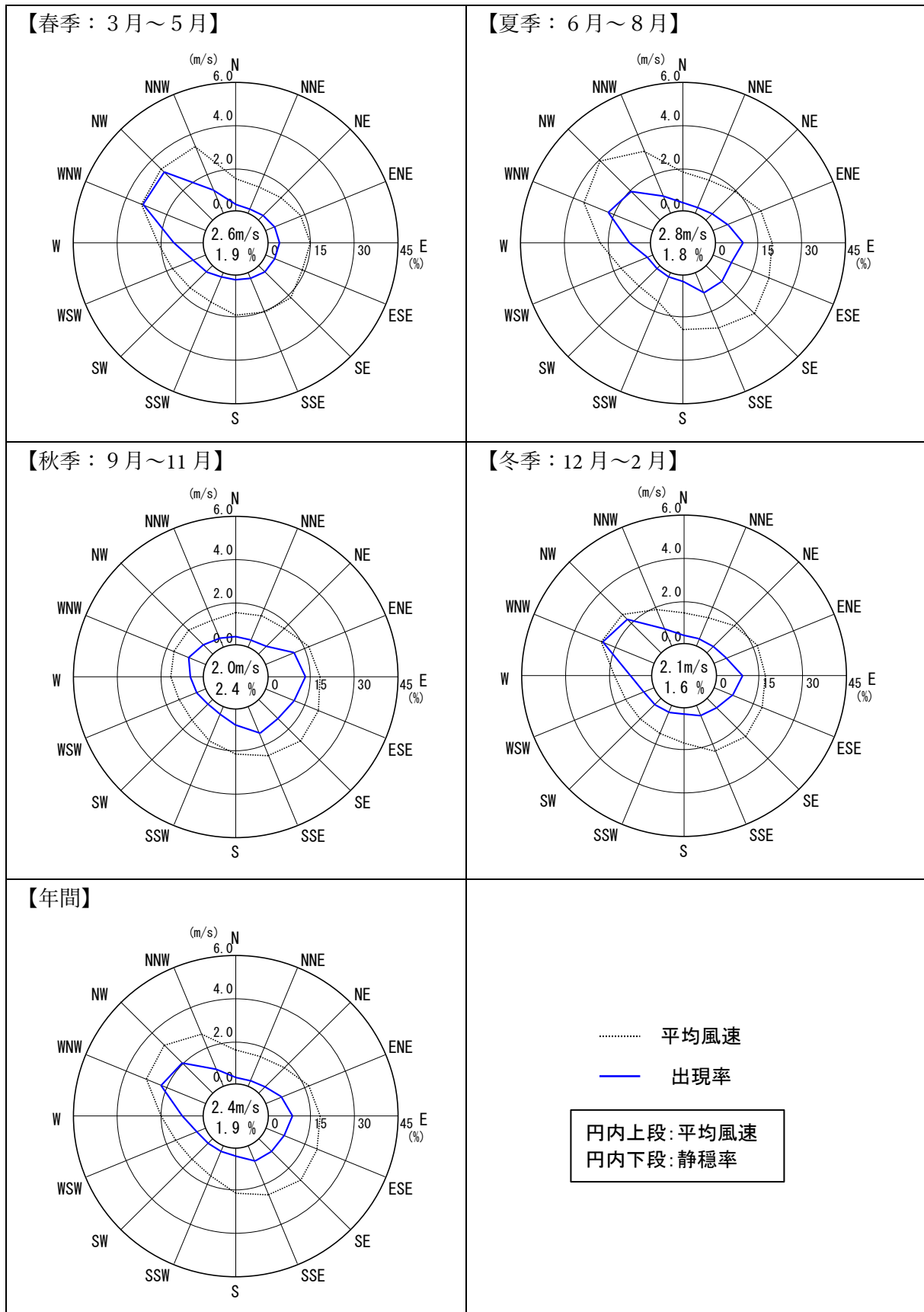
注)「) 」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、上位の統計を用いる際は一部の例外を除いて正常値(資料が欠けていない)と同等に扱うことを示している。

出典：「過去の気象データ検索」(令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ)



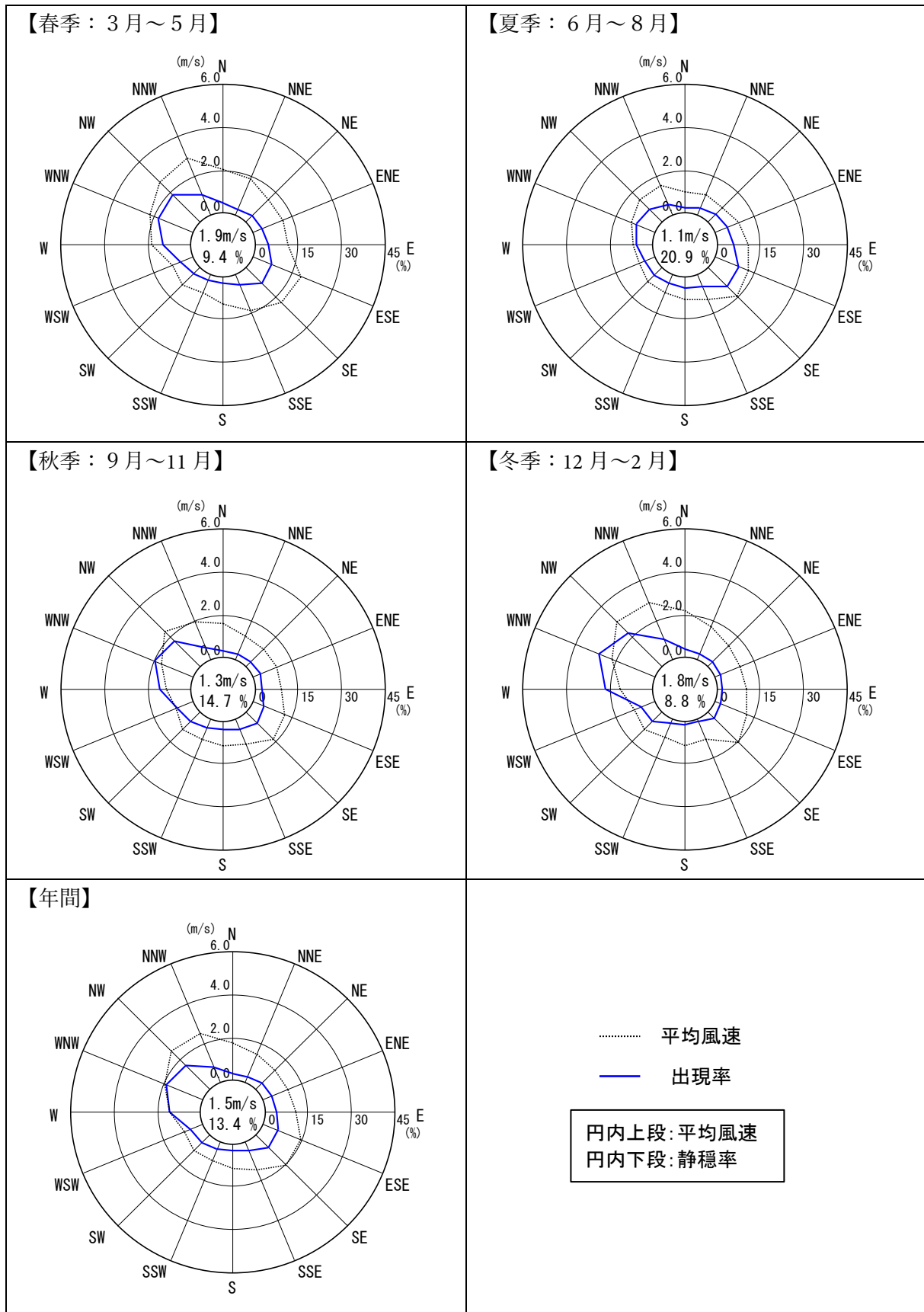
出典：「過去の気象データ検索」(令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ)

図 3.2-1 (2) 気温及び降水量の状況(寄居地域気象観測所：令和2年)



出典：「過去の気象データ検索」(令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ)

図 3.2-2 (1) 風配図(熊谷地域気象観測所：令和2年)



出典：「過去の気象データ検索」（令和3年7月閲覧、気象庁ホームページ）

図 3.2-2 (2) 風配図(寄居地域気象観測所：令和2年)

イ 大気質

対象事業実施区域周辺には、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）が1箇所（深谷局）、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）が1箇所（深谷原郷自排局）、深谷市独自のダイオキシン類調査地点が3地点ある。

各測定局の測定項目は表 3.2-3 に、測定局の位置は図 3.2-3 に示すとおりである。

表 3.2-3 測定項目

区 分	測定局	二酸化硫黄	窒素酸化物	一酸化炭素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	炭化水素	ダイオキシン類	有害大気汚染物質
一般局	深谷		○		○	○	○		○	
自排局	深谷原郷		○			○	○	○		
深谷市 測定地点	中通り自治会館								○	
	櫛引東部自治会館								○	
	岡部総合支所								○	






出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（令和2年12月、埼玉県環境部）

「令和元年度版 深谷市の環境」（令和元年10月、深谷市環境水道環境課）

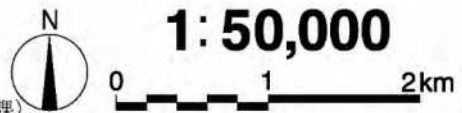


図3.2-3 大気常時監視測定局等位置図

凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 市町界
-  : 一般局
-  : 自排局
-  : ダイオキシン類測定地点

出典：「令和元年度大気常時監視測定結果報告書」
 (令和2年12月、埼玉県環境部)
 「令和元年度版 深谷市の環境」(令和元年10月、深谷市環境水道環境課)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(ア) 二酸化窒素

二酸化窒素の令和元年度における測定結果は、表 3.2-4 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における二酸化窒素の経年変化は、図 3.2-4 に示すとおりである。1 日平均値の年間 98% 値は減少傾向であり、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3.2-4 二酸化窒素の測定結果(令和元年度)

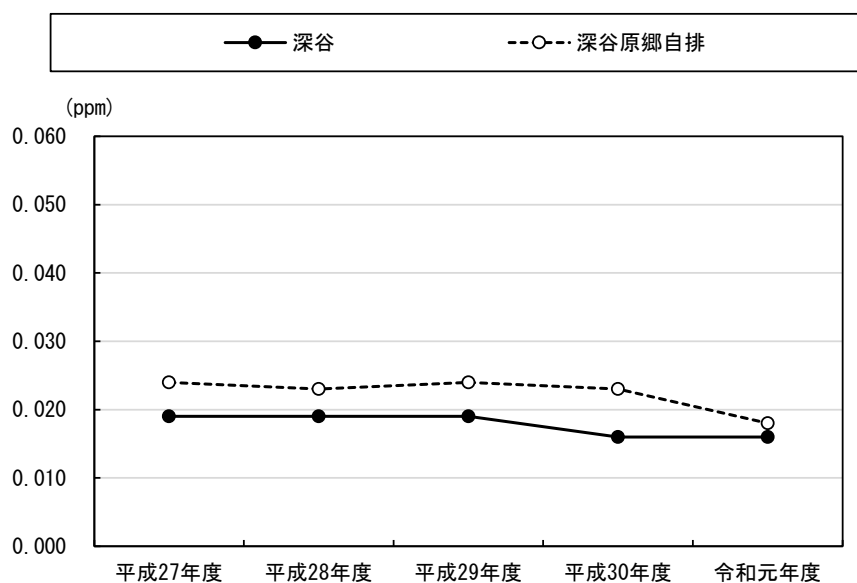
区分	測定局	年平均値 (ppm)	日平均値の年間98%値 (ppm)	環境基準
一般局	深谷	0.008	0.016	○
自排局	深谷原郷自排	0.009	0.018	○

注) 環境基準及び評価方法は、以下のとおりである。

環境基準：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

評価：1時間値の1日平均値の年間98%値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であることを達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（令和 2 年 12 月、埼玉県環境局部）



出典：「平成27年度～令和元年度大気汚染物質の常時監視測定結果について」

(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

図3.2-4 二酸化窒素の経年変化(年間98%値)

(イ) 光化学オキシダント

光化学オキシダントの令和元年度における測定結果は、表 3.2-5 に示すとおりであり、環境基準を達成していない。

平成 27 年度から令和元年度における光化学オキシダントの経年変化は、図 3.2-5 に示すとおりである。昼間 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間数は 500～700 時間の範囲内で変動がみられ、いずれの年度も環境基準を達成していない。

表 3.2-5 光化学オキシダントの測定結果(令和元年度)

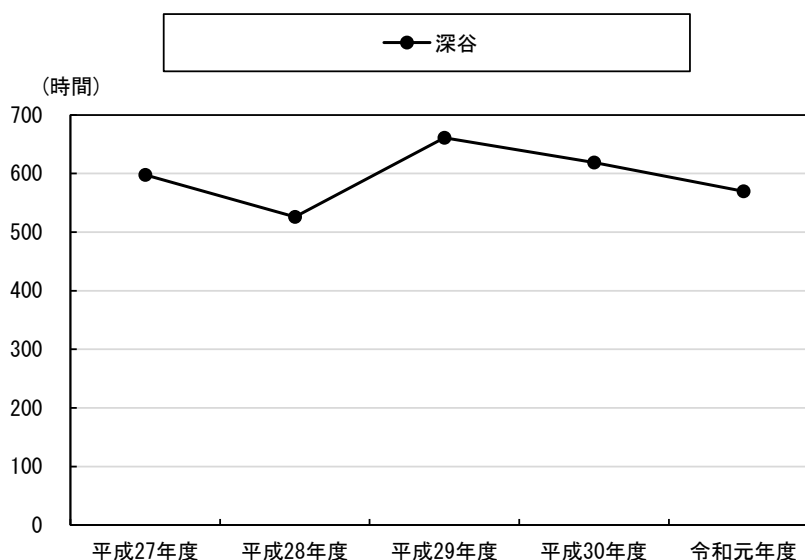
区分	測定局名	昼間の 1 時間値の 年平均値 (ppm)	昼間の 1 時間値の 最高値 (ppm)	昼間の 1 時間値 が0.06ppmを 超えた時間数 (時間)	昼間の 1 時間値 が0.12ppmを 超えた時間数 (時間)	環境 基準
一般局	深谷	0.037	0.146	570	1	×

注) 環境基準及び評価方法は以下のとおりである。

環境基準：1時間値が0.06ppm以下であること

評価：昼間（5時～20時）の1時間値が0.06ppm以下であることを達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（令和 2 年 12 月、埼玉県環境部）



出典：「平成27年度～令和元年度大気汚染物質の常時監視測定結果について」

(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

図3.2-5 光化学オキシダントの経年変化(昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数)

(ウ) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質の令和元年度における測定結果は、表 3.2-6 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における浮遊粒子状物質の経年変化は、図 3.2-6 に示すとおりである。日平均値の 2%除外値は減少傾向であり、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3.2-6 浮遊粒子状物質の測定結果(令和元年度)

区分	測定局	年平均値 (mg/m ³)	日平均値の 2%除外値 (mg/m ³)	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 が2日以上 連続したこ との有無	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 数(日)	1時間値の 最高値 (mg/m ³)	環境基準	
							長期的 評価	短期的 評価
一般局	深谷	0.011	0.033	無	0	0.095	○	○
自排局	深谷原郷自排	0.014	0.033	無	0	0.066	○	○

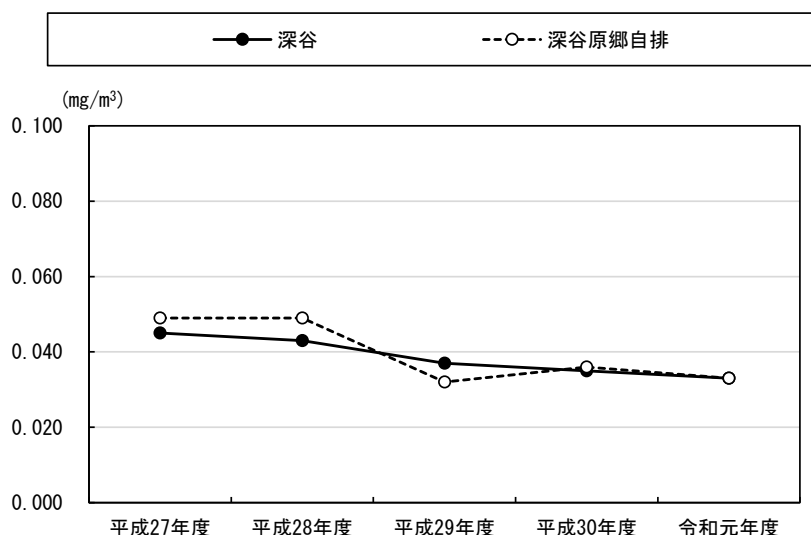
注) 環境基準及び評価方法は以下のとおりである。

環境基準：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。

長期的評価：「1時間値の1日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日以上連続しないこと」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

短期的評価：「1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること」を達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書(令和元年度)」(令和2年12月、埼玉県環境部)



出典：「平成27年度～令和元年度大気汚染物質の常時監視測定結果について」

(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

図3.2-6 浮遊粒子状物質の経年変化(2%除外値)

(エ) 微小粒子状物質

微小粒子状物質の令和元年度における測定結果は、表 3.2-7 に示すとおりであり、各測定局ともに環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度における微小粒子状物質の経年変化は、図 3.2-7 に示すとおりである。各測定局ともに 1 日平均値の年間 98% 値は減少傾向であり、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3.2-7 微小粒子状物質の測定結果(令和元年度)

区分	測定局	日平均値の 年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	日平均値の 年間98%値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	環境基準	
				長期的評価	短期的評価
一般局	深谷	10.2	25.4	○	○
自排局	深谷原郷自排	9.6	22.6	○	○

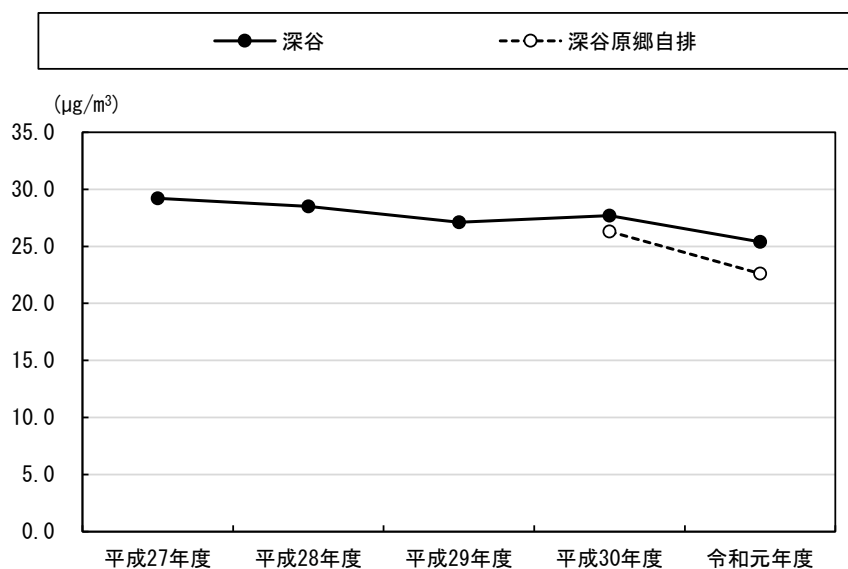
注) 環境基準及び評価方法は以下のとおりである。

環境基準：1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

長期的評価：1年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることを達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。ただし、1日のうち有効測定時間が20時間以上ある日が250日以上ある場合のみを評価対象とする。

短期的評価：1時間の1日平均値の98%値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であることを達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（令和2年12月、埼玉県環境部）



出典：「平成27年度～令和元年度大気汚染物質の常時監視測定結果について」

(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書」（令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ）

図3.2-7 微小粒子状物質の経年変化(年間98%値)

(オ) 炭化水素

非メタン炭化水素の令和元年度における測定結果は、表 3.2-8 に示すとおりであり、指針値を上回っている。

平成 27 年度から令和元年度における非メタン炭化水素の午前 6 時～9 時の年平均値は、図 3.2-8 に示すとおりである。年平均値は概ね横ばいで推移し、いずれの年度も指針値を上回っている。

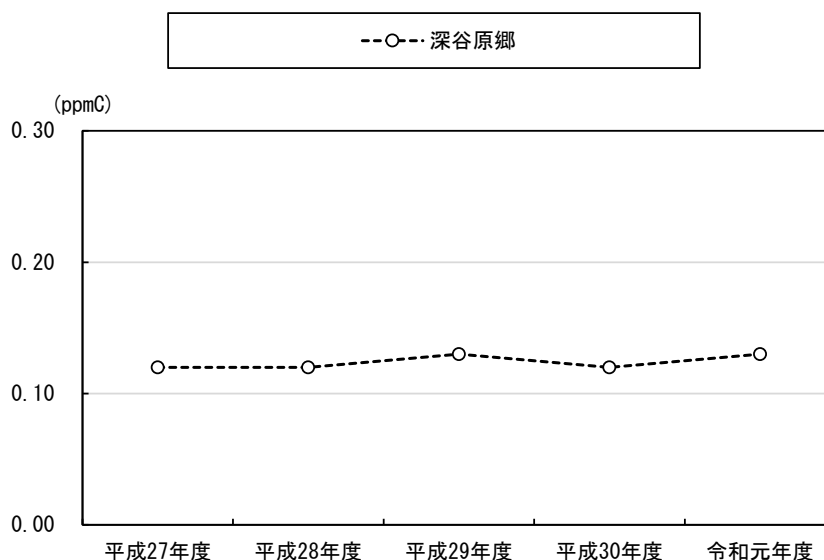
表 3.2-8 非メタン炭化水素の測定結果(令和元年度)

区分	測定局	午前6～9時の測定日数(日)	午前6～9時の年平均値(ppmC)	午前6～9時の3時間平均値の最高値(ppmC)	午前6～9時の3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数(日)	指針との比較
自排局	深谷原郷自排	358	0.12	0.91	9	×

注) 指針値は以下のとおりである。

指針値：午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は、0.20ppmCから0.31ppmCの範囲にあることを達成した場合は「○」、達成しない場合は「×」。

出典：「大気汚染常時監視測定結果報告書（令和元年度）」（令和2年12月、埼玉県環境局）



出典：「平成27年度～令和元年度大気汚染物質の常時監視測定結果について」

(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

図3.2-8 非メタン炭化水素の午前6時から9時の年平均値の経年変化

(カ) ダイオキシン類

ダイオキシン類の令和元年度における測定結果は、表 3.2-9 に示すとおりであり、環境基準を達成している。

平成 27 年度から令和元年度におけるダイオキシン類の経年変化は、図 3.2-9 に示すとおりである。年平均値は概ねほぼ横ばいで推移し、いずれの年度も環境基準を達成している。

表 3.2-9 ダイオキシン類の測定結果(令和元年度)

区分	調査地点	調査結果 (pg-TEQ/m ³)					環境基準
		第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	平均値	
一般局	深谷	0.089	0.036	0.023	0.018	0.042	○
深谷市 測定地点	中通り自治会館	0.082	0.016	0.008	0.016	0.031	○
	櫛引東部自治会館	0.059	0.011	0.013	0.019	0.026	○
	岡部総合支所	0.072	0.021	0.011	0.020	0.031	○

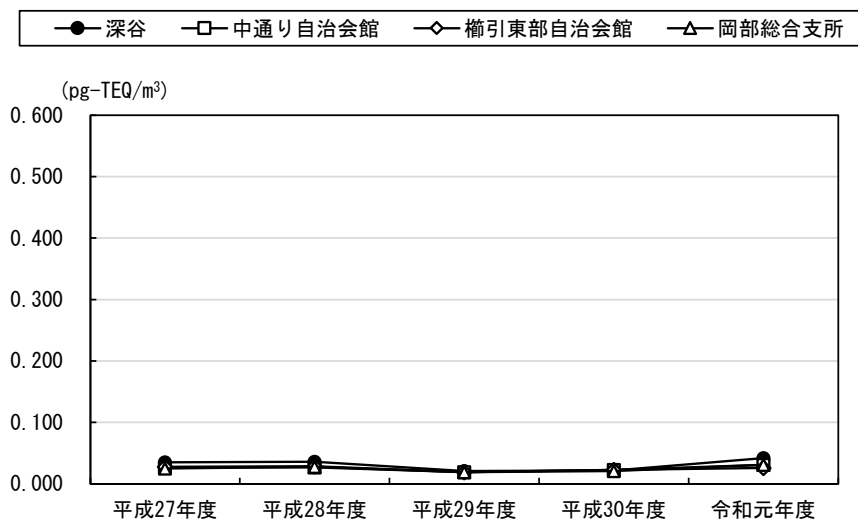
注1) 環境基準及び評価方法は以下のとおりである。

環境基準：1年平均値が0.6 pg-TEQ/m³以下であること。

注2)ダイオキシン類濃度は、最も毒性が強い「2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン (2,3,7,8TCDD)」の毒性を単位換算した値。

出典：「令和元年度ダイオキシン類大気常時監視結果について」（令和2年8月、埼玉県環境部大気環境課）

「令和元年度版 深谷市の環境」（令和元年10月、深谷市環境水道環境課）



出典：「平成27年度～令和元年度ダイオキシン類大気常時監視結果について」

(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

「平成27年度～令和元年度版 深谷市の環境」（令和元年10月、深谷市環境水道環境課）

図3.2-9 ダイオキシン類の経年変化(年間平均値)

ウ 騒音・低周波音

(ア) 環境騒音

対象事業実施区域及びその周囲において、環境騒音の調査は行われていない。

(イ) 自動車交通騒音

調査範囲及びその周辺における令和元年度の自動車交通騒音の環境基準適合状況は表 3.2-10 に、自動車交通騒音の調査地点は図 3.2-10 に示すとおりである。自動車交通騒音は、環境基準を達成していない地点が 1 地点、昼夜ともに環境基準を達成していない区間が 5 区間ある。

表 3.2-10(1) 自動車交通騒音の環境基準適合状況(点的評価)

No.	路線名	測定地点	地域の 類型	車 線 数	幹線道路の 近接空間	等価騒音レベル (dB)			
						昼 間	環境基準 達成	夜 間	環境基準 達成
1	一般国道17号	深谷市岡	B	2	近接空間	72	×	69	×

注1)No.は図3.2-10と対応している。

注2)環境基準及び評価方法は以下のとおりである。

幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準：昼間70dB、夜間65dB

注3)「幹線道路の近接空間」欄の「近接空間」は、近接空間であることを示す。

注4)「環境基準達成」欄の「○」は、環境基準を達成していること、「×」は環境基準を達成していないことを示す。

出典：「平成30年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」(令和2年4月、埼玉県環境部)

表 3.2-10(2) 自動車騒音の環境適合状況(面的評価)

No.	評価対象道路	評価区間		測定地点における等価騒音レベル (dB)		評価対象住居等戸数 (戸)	昼間、夜間とも基準値以下 (戸)	昼間のみ基準値以下 (戸)	夜間のみ基準値以下 (戸)	昼間・夜間とも基準超過 (戸)
				昼間	夜間					
2	一般国道17号	深谷市東方	深谷市杓掛	<u>72</u>	<u>69</u>	61	40	13	0	8
3	一般国道17号	深谷市普濟寺	深谷市杓掛	68	65	133	132	1	0	0
4	一般国道140号	深谷市長在家	深谷市田中	<u>72</u>	<u>67</u>	18	16	0	0	2
5	一般国道140号	深谷市田中	深谷市黒田	<u>73</u>	<u>70</u>	213	138	29	0	46
6	県道伊勢崎深谷線	深谷市中瀬	深谷市深谷町6	67	61	431	430	0	0	1
7	県道深谷東松山線	深谷市仲町8	深谷市幡羅町1-10	63	58	553	553	0	0	0
8	県道深谷寄居線	深谷市西島	深谷市武蔵野	69	63	630	626	0	4	0
9	県道深谷嵐山線	深谷市人見	深谷市田中	70	65	182	182	0	0	0
10	県道熊谷児玉線	深谷市折之口	深谷市今泉	68	63	244	244	0	0	0
11	県道花園本庄線	深谷市針ヶ谷	深谷市榛沢	67	59	171	171	0	0	0
12	県道小前田児玉線	深谷市小前田	深谷市武蔵野	70	<u>67</u>	232	196	34	0	2
13	県道 新野岡部停車場線	深谷市岡	深谷市岡	57	51	65	65	0	0	0
14	県道針ヶ谷岡線	深谷市針ヶ谷	深谷市岡	63	55	309	309	0	0	0
15	市道幹-3	深谷市上野台	深谷市上野台	<u>71</u>	63	605	585	0	20	0

注1)No.は図3.2-10と対応している。

注2)下線は環境基準を超過していることを示す。

出典：「平成30年度自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」(令和2年4月、埼玉県環境部)

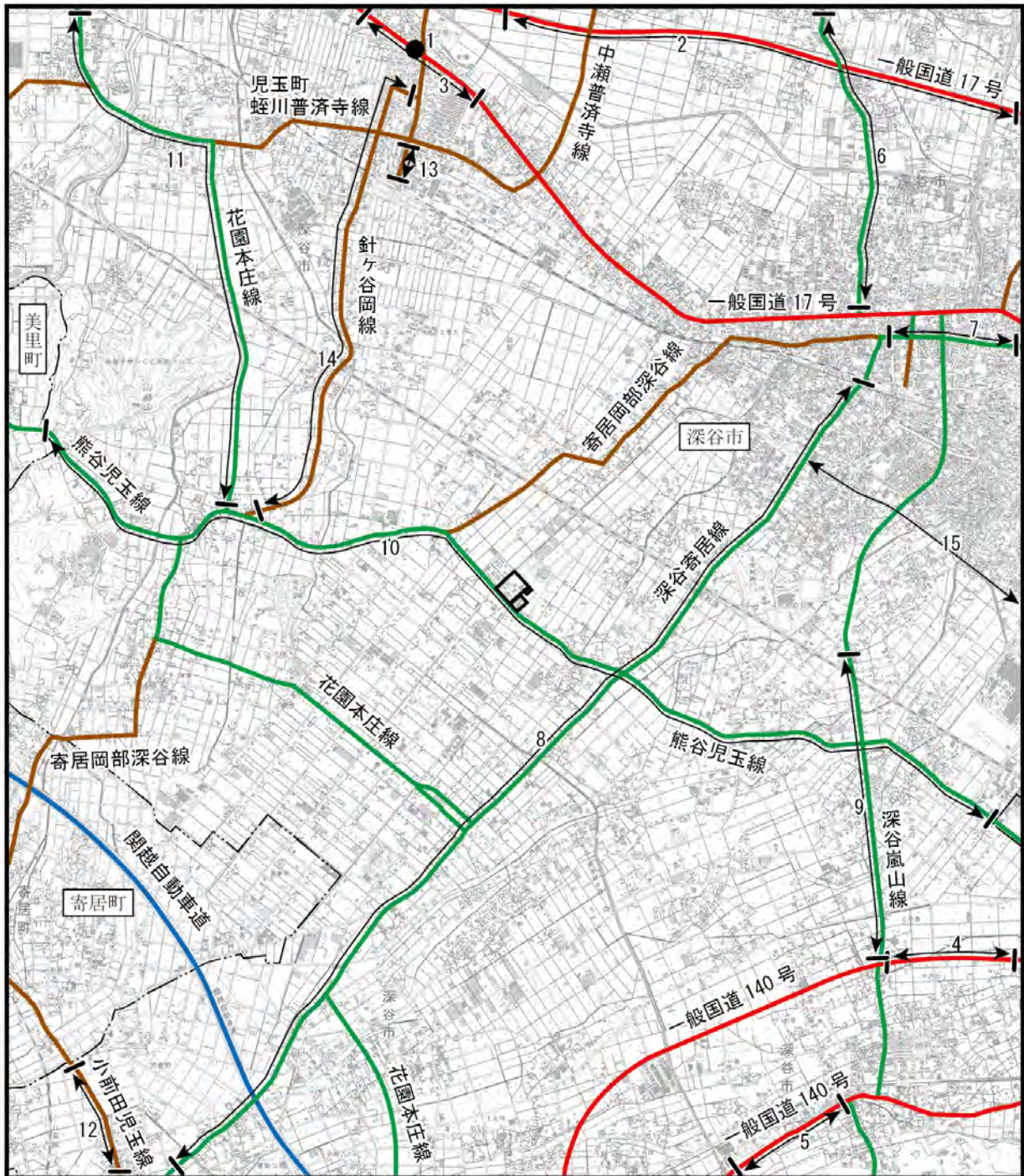


図3.2-10 自動車騒音調査地点位置図

凡例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 高速自動車国道
- : 一般国道
- : 主要地方道
- : 一般県道
- : 自動車交通騒音調査地点 (点的評価)
- : 自動車交通騒音評価区間 (面的評価)



1:50,000

0 1 2km

出典：「平成30年度 自動車交通騒音・道路交通振動実態調査結果」
(令和2年4月、埼玉県環境部)

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(ウ) 低周波音

対象事業実施区域及びその周囲において、低周波音の調査は行われていない。

エ 振動

(ア) 環境振動

対象事業実施区域及びその周囲において、環境振動の調査は行われていない。

(イ) 道路交通振動

対象事業実施区域及びその周囲において、道路交通振動の調査は行われていない。

オ 悪臭

対象事業実施区域及びその周囲において、悪臭の調査は行われていない。

(2) 水質、底質、水象等の状況

ア 水象

対象事業実施区域及びその周囲における河川等の状況は、図 3.2-11 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、一級河川の福川及び唐沢川が流れている。対象事業実施区域の西側には、西川が流れている。

イ 水質

対象事業実施区域及びその周囲における水質測定地点の概要は表 3.2-11 に、水質測定地点は図 3.2-11 に示すとおりである。

令和元年度における生活環境項目の測定結果は表 3.2-12 に示すとおりである。

令和元年度における健康項目の測定結果は、表 3.2-13 に示すとおりである。

表 3.2-11 水質測定地点の概要

河川名	測定地点	所在地	測定対象	環境基準類型	
唐沢川	森下橋	深谷市	生活環境項目 (大腸菌群数を除く)	B	生物B
福川	福川橋			B	生物B
	田中橋			B	生物B
志戸川	落合橋下流			—	—
上唐沢川	呑沢橋			B	生物B
岡部川	忠度橋			—	—
前の川排水路	上野台地内			—	—
針ヶ谷排水路	沓掛地内			—	—
櫛挽排水路	田中地内			—	—

出典：「令和元年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」（令和3年3月、埼玉県）

「令和元年度版深谷市の環境」（令和2年10月、深谷市）

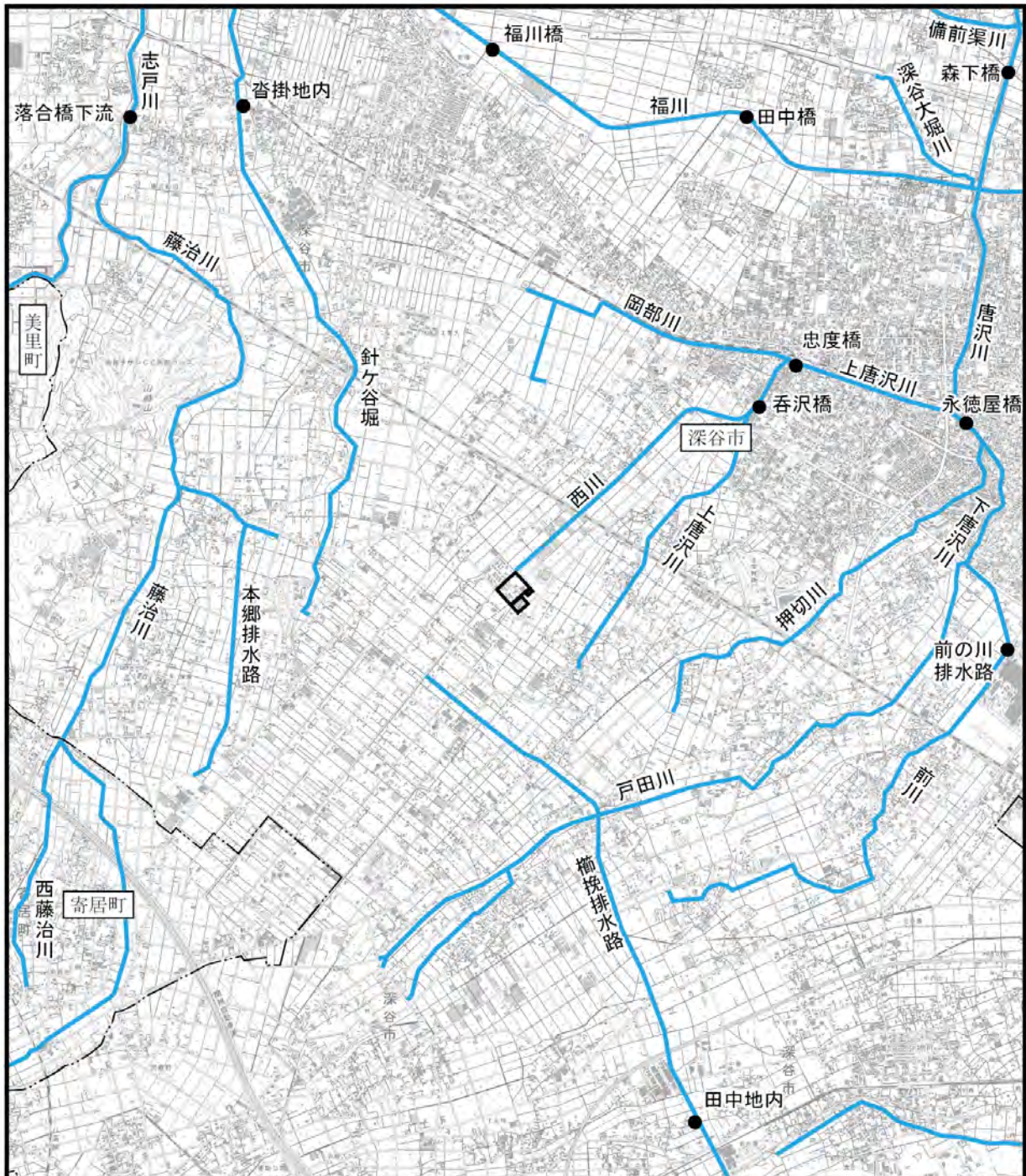
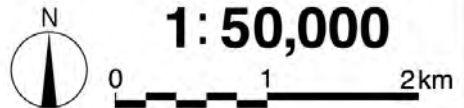


図3.2-11 河川等及び水質測定地点位置図

凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 河川、水路等

出典：「令和元年度公共用水域及び地下水の水質測定結果」
 (令和3年3月、埼玉県)
 「令和元年度版深谷市の環境」(令和2年10月、深谷市)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

表 3.2-12(1) 水質測定結果(生活環境項目：令和元年度)

項目	測定地点	唐沢川 森下橋	福川 福川橋	福川 田中橋	環境基準
水素イオン濃度[pH]		8.0	7.2	7.1	6.5以上8.5以下
生物化学的酸素要求量[BOD] (mg/L)		1.7	2.9	4.4	3以下
浮遊物質濃度[SS] (mg/L)		8	8	10	25以上
溶存酸素量[DO] (mg/L)		10	5.4	7.8	5以上
大腸菌群数(MPN/100mL)		160,000	-	-	1000以下

出典：「令和元年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)
「令和元年度環境測定結果」(令和3年7月、深谷市ホームページ)

表 3.2-12(2) 水質測定結果(生活環境項目：令和元年度)

項目	測定地点	志戸川 落合橋下流	上唐沢川 呑沢橋	岡部川 忠度橋	環境基準
水素イオン濃度[pH]		8.0	8.2	7.4	-
生物化学的酸素要求量[BOD] (mg/L)		2.0	2.8	25.7	-
浮遊物質濃度[SS] (mg/L)		6.5	8.2	13.5	-
溶存酸素量[DO] (mg/L)		9.7	9.4	5.0	-
大腸菌群数(MPN/100mL)		-	-	-	-

出典：「令和元年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)
「令和元年度環境測定結果」(令和3年7月、深谷市ホームページ)

表 3.2-12(3) 水質測定結果(生活環境項目：令和元年度)

項目	測定地点	前の川排水路 上野台地内	針ヶ谷排水路 沓掛地内	櫛挽排水路 田中地内	環境基準
水素イオン濃度[pH]		8.2	8.9	8.8	-
生物化学的酸素要求量[BOD] (mg/L)		1.4	2.2	1.5	-
浮遊物質濃度[SS] (mg/L)		4.8	5.3	4.2	-
溶存酸素量[DO] (mg/L)		9.2	10.9	12.8	-
大腸菌群数(MPN/100mL)		-	-	-	-

出典：「令和元年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)
「令和元年度環境測定結果」(令和3年7月、深谷市ホームページ)

表 3.2-13 水質測定結果(健康項目：令和元年度)

測定地点	項目	測定結果	環境基準
唐沢川 森下橋 (mg/L)	カドミウム	<0.0003	0.003以下
	全シアン	<0.1	検出されないこと
	鉛	<0.001	0.01以下
	六価クロム	<0.005	0.05以下
	砒素	<0.001	0.01以下
	総水銀	<0.0005	0.0005以下
	アルキル水銀	—	検出されないこと
	P C B	<0.0005	検出されないこと
	ジクロロメタン	<0.002	0.02以下
	四塩化炭素	<0.0002	0.002以下
	1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004以下
	1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.1以下
	シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04以下
	1,1,1-トリクロロエタン	<0.0005	1以下
	1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006以下
	トリクロロエチレン	<0.001	0.01以下
	テトラクロロエチレン	<0.0005	0.01以下
	1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002以下
	チウラム	<0.0006	0.006以下
	シマジン	<0.0003	0.003以下
	チオベンカルブ	<0.002	0.02以下
	ベンゼン	<0.001	0.01以下
	セレン	<0.001	0.01以下
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	3.9	10以下
	ふつ素	0.06	0.8以下
	ほう素	0.07	1以下
	1,4-ジオキサン	<0.005	0.05以下

出典：「令和元年度 公共用水域及び地下水の水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

ウ 底質

対象事業実施区域及びその周囲において、底質の調査は行われていない。

エ 地下水

対象事業実施区域及びその周囲における令和元年度の地下水の概況調査結果は表 3.2-14 に、周辺地区調査結果は表 3.2-15 に、継続監視調査結果は表 3.2-16 に示すとおりである。

表 3.2-14(1) 地下水の概況調査結果(令和元年度)

項目	調査地点		環境基準
	深谷市榛沢新田	深谷市柏合	
井戸深度 (m)	6.39	6	—
浅深井戸の別	浅	浅	—
用途	生活用水	その他	—
カドミウム	mg/L < 0.0003	< 0.0003	0.003以下
全シアン	mg/L < 0.1	< 0.1	不検出
鉛	mg/L < 0.001	< 0.001	0.01以下
六価クロム	mg/L < 0.005	< 0.005	0.05以下
砒素	mg/L < 0.001	< 0.001	0.01以下
総水銀	mg/L < 0.0005	< 0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L -	-	不検出
PCB	mg/L < 0.0005	< 0.0005	不検出
ジクロロメタン	mg/L < 0.002	< 0.002	0.02以下
四塩化水素	mg/L < 0.0002	< 0.0002	0.002以下
クロロエチレン	mg/L < 0.0002	< 0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L < 0.0004	< 0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L < 0.002	< 0.002	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L < 0.002	< 0.002	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L < 0.002	< 0.002	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L < 0.004	< 0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L < 0.0005	< 0.0005	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L < 0.0006	< 0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L < 0.001	< 0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L < 0.0005	< 0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L < 0.0002	< 0.0002	0.002以下
チウラム	mg/L < 0.0006	< 0.0006	0.006以下
シマジン	mg/L < 0.0003	< 0.0003	0.003以下
チオペンカルブ	mg/L < 0.002	< 0.002	0.02以下
ベンゼン	mg/L < 0.001	< 0.001	0.01以下
セレン	mg/L < 0.001	< 0.001	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L < 0.005	< 0.005	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L 16	9.1	10以下
ふっ素	mg/L 0.03	0.1	0.8以下
ほう素	mg/L < 0.02	0.04	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L < 0.005	< 0.005	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-14(2) 地下水の概況調査結果(令和元年度)

項目	調査地点		深谷市長在家	深谷市武蔵野	環境基準
井戸深度 (m)			30	9.5	—
浅深井戸の別			不明	浅	—
用途			生活用水	その他	—
カドミウム	mg/L	< 0.0003	< 0.0003		0.003以下
全シアン	mg/L	< 0.1	< 0.1		不検出
鉛	mg/L	< 0.001	< 0.001		0.01以下
六価クロム	mg/L	< 0.005	< 0.005		0.05以下
砒素	mg/L	0.001	< 0.001		0.01以下
総水銀	mg/L	< 0.0005	< 0.0005		0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-		不検出
PCB	mg/L	< 0.0005	< 0.0005		不検出
ジクロロメタン	mg/L	< 0.002	< 0.002		0.02以下
四塩化水素	mg/L	< 0.0002	< 0.0002		0.002以下
クロロエチレン	mg/L	< 0.0002	< 0.0002		0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	< 0.0004	< 0.0004		0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002		0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002		—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.002	< 0.002		—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.004	< 0.004		0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	< 0.0005	< 0.0005		1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	< 0.0006	< 0.0006		0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	< 0.001	< 0.001		0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	< 0.0005	< 0.0005		0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	< 0.0002	< 0.0002		0.002以下
チウラム	mg/L	< 0.0006	< 0.0006		0.006以下
シマジン	mg/L	< 0.0003	< 0.0003		0.003以下
チオペンカルブ	mg/L	< 0.002	< 0.002		0.02以下
ベンゼン	mg/L	< 0.001	< 0.001		0.01以下
セレン	mg/L	< 0.001	< 0.001		0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	< 0.005	< 0.005		—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	0.21	0.16		10以下
ふっ素	mg/L	0.17	0.12		0.8以下
ほう素	mg/L	< 0.02	< 0.02		1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	< 0.005	< 0.005		0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-15(1) 地下水の周辺地区調査結果(令和元年度)

項目	調査地点	深谷市	深谷市	深谷市	環境基準
		榛沢新田	榛沢新田	榛沢新田	
井戸深度 (m)		7	不明	6.39	—
浅深井戸の別		浅	浅	浅	—
用途		生活用水	生活用水	生活用水	—
カドミウム	mg/L	-	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	-	-	-	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	-	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	-	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	-	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	5.8	18	21	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-15(2) 地下水の周辺地区調査結果(令和元年度)

項目	調査地点	深谷市	深谷市	深谷市	環境基準
		榛沢新田	榛沢新田	榛沢新田	
井戸深度 (m)		5~6	不明	5~6	—
浅深井戸の別		浅	不明	浅	—
用途		生活用水	生活用水	生活用水	—
カドミウム	mg/L	-	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	-	-	-	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	-	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	-	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	-	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	18	25	10	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-15(3) 地下水の周辺地区調査結果(令和元年度)

項目		調査地点		環境基準
		寄居町用土	寄居町用土	
井戸深度 (m)		7.5	不明	—
浅深井戸の別		浅	浅	—
用途		生活用水	その他	—
カドミウム	mg/L	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	-	-	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	-	-	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	0.003以下
チオペンカルブ	mg/L	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	12	4	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-15(4) 地下水の周辺地区調査結果(令和元年度)

項目	調査地点		寄居町用土	寄居町用土	環境基準
			4	3	—
井戸深度 (m)			4	3	—
浅深井戸の別			浅	浅	—
用途			生活用水	生活用水	—
カドミウム	mg/L	-	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	-	-	-	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	-	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	-	0.003以下
チオペンカルブ	mg/L	-	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	7.5	8.1	-	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-16(1) 地下水の継続監視調査結果(令和元年度)

項目	調査地点			環境基準
	深谷市 折之口	深谷市 人見	深谷市 櫛引	
井戸深度 (m)	3.51	不明	6.08	—
浅深井戸の別	浅	深	浅	—
用途	生活用水	その他	生活用水	—
カドミウム	mg/L	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	< 0.0002	< 0.0002	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	< 0.0002	< 0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	< 0.01	< 0.01	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.014	0.009	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	< 0.10	< 0.1	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	0.002	< 0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	0.018	< 0.001	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	73
ふっ素	mg/L	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-16(2) 地下水の継続監視調査結果(令和元年度)

項目	調査地点			環境基準	
	深谷市 櫛引	深谷市 大谷	深谷市 山崎		
井戸深度 (m)	90	4.1	6.4	—	
浅深井戸の別	深	浅	浅	—	
用途	工業用水	その他	生活用水	—	
カドミウム	mg/L	-	-	0.003以下	
全シアン	mg/L	-	-	不検出	
鉛	mg/L	-	-	0.01以下	
六価クロム	mg/L	-	-	0.05以下	
砒素	mg/L	-	-	0.01以下	
総水銀	mg/L	-	-	0.0005以下	
アルキル水銀	mg/L	-	-	不検出	
PCB	mg/L	-	-	不検出	
ジクロロメタン	mg/L	-	-	0.02以下	
四塩化水素	mg/L	-	-	0.002以下	
クロロエチレン	mg/L	-	-	0.002以下	
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	0.004以下	
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.1以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—	
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—	
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.04以下	
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	1以下	
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	0.006以下	
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下	
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下	
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	0.002以下	
チウラム	mg/L	-	-	0.006以下	
シマジン	mg/L	-	-	0.003以下	
チオベンカルブ	mg/L	-	-	0.02以下	
ベンゼン	mg/L	-	-	0.01以下	
セレン	mg/L	-	-	0.01以下	
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	—	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	12	53	36	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-16(3) 地下水の継続監視調査結果(令和元年度)

項目		調査地点		
		深谷市針ヶ谷	深谷市武蔵野	環境基準
井戸深度 (m)		7.5	4.69	—
浅深井戸の別		浅	浅	—
用途		生活用水	生活用水	—
カドミウム	mg/L	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	-	-	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	-	-	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	0.003以下
チオペンカルブ	mg/L	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	19	68	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	0.05以下

出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

表 3.2-16(4) 地下水の継続監視調査結果(令和元年度)

項目		調査地点		環境基準
		寄居町用土	寄居町用土	
井戸深度 (m)		4.2	6.0	—
浅深井戸の別		浅	浅	—
用途		一般飲用	生活用水	—
カドミウム	mg/L	-	-	0.003以下
全シアン	mg/L	-	-	不検出
鉛	mg/L	-	-	0.01以下
六価クロム	mg/L	-	-	0.05以下
砒素	mg/L	-	-	0.01以下
総水銀	mg/L	-	-	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	-	-	不検出
PCB	mg/L	-	-	不検出
ジクロロメタン	mg/L	-	-	0.02以下
四塩化水素	mg/L	-	-	0.002以下
クロロエチレン	mg/L	-	-	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	-	-	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
トランス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	—
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	-	-	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	-	-	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	-	-	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	-	-	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	-	-	0.002以下
チウラム	mg/L	-	-	0.006以下
シマジン	mg/L	-	-	0.003以下
チオペンカルブ	mg/L	-	-	0.02以下
ベンゼン	mg/L	-	-	0.01以下
セレン	mg/L	-	-	0.01以下
亜硝酸性窒素	mg/L	-	-	—
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	6	7	10以下
ふっ素	mg/L	-	-	0.8以下
ほう素	mg/L	-	-	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	-	-	0.05以下

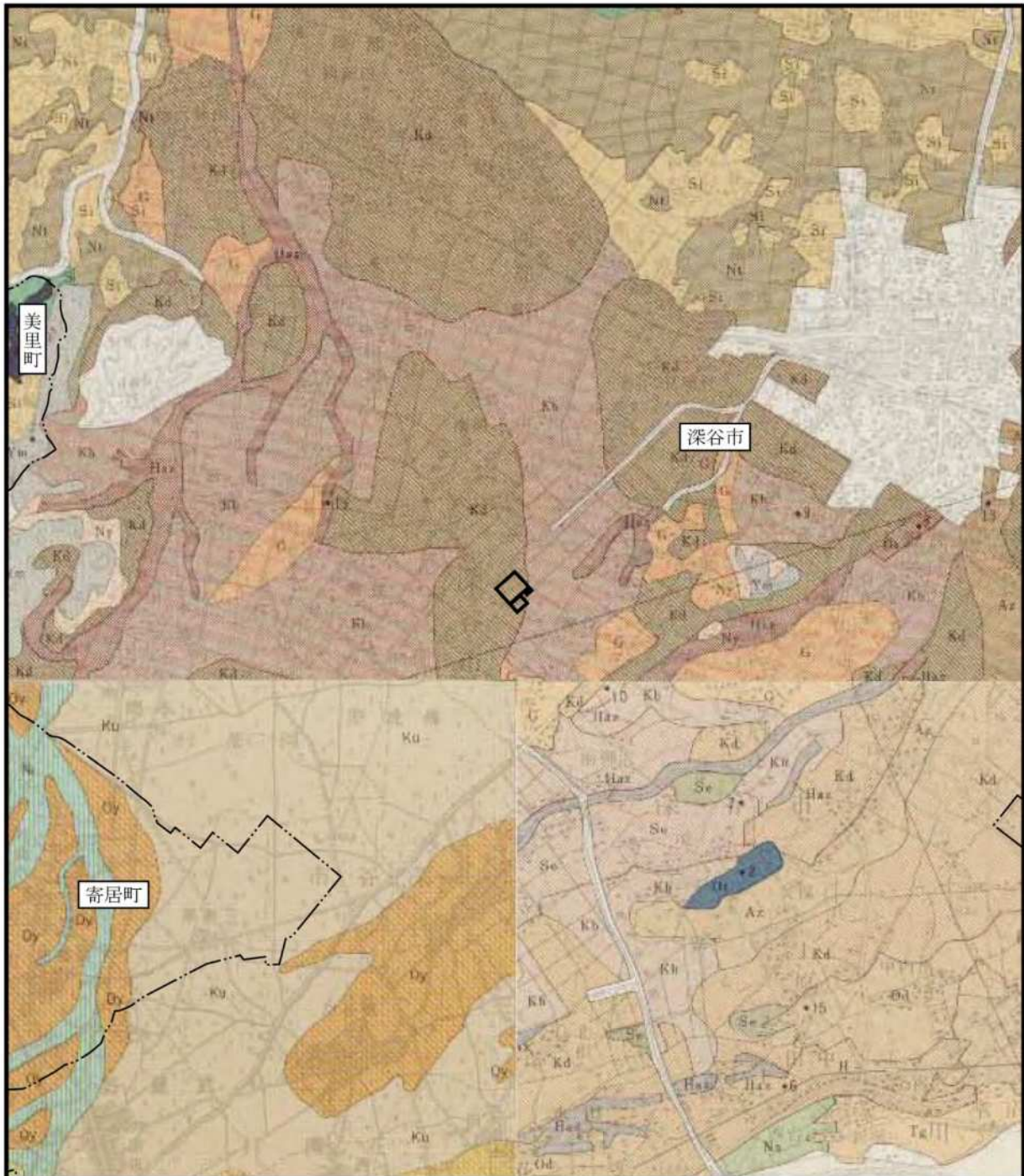
出典：「令和元年度公共用水域水質測定結果」(令和3年3月、埼玉県環境部)

(3) 土壌及び地盤の状況

ア 土壌の状況

事業実施区域及びその周囲の表層土壌の分布状況は、図 3.2-12 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲の土壌は、淡色黒ボク土壌（児玉統、久城統）、黒ボク土壌（胃山統）、火山灰土壌（櫛挽統）が分布している。



凡 例

図3.2-12 土壌図

□ : 対象事業実施区域

— : 市町界

【高崎・深谷】

■ : 片柳統

■ : 青山統

■ : 清水統

■ : 久城統

■ : 新戒統

■ : 児玉統

■ : 榛沢統

■ : 仁手統

【熊谷】

■ : 久城統

■ : 小前田統

■ : 青瀬統

■ : 児玉統

■ : 長瀬統

■ : 千代統

【寄居】

■ : 大竹統

■ : 下大谷統

■ : 榛沢統

■ : 青山統

■ : 勅使河原統

■ : 蕨谷統

■ : 大谷統

■ : 櫛挽統

■ : 大野原統

出典：「土壌図（熊谷）」（昭和49年3月、埼玉県）
 「土壌図（寄居）」（昭和39年3月、埼玉県）
 「土壌図（高崎・深谷）」（昭和54年3月、埼玉県）



1:50,000

0 1 2km

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

イ 土壌汚染

(ア) 要措置区域及び形質変更時要届出区域

事業実施区域及びその周囲における土壌汚染対策法（平成 14 年 5 月、年法律第 53 号）に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定状況は表 3.2-17 に示すとおりである。

なお、対象事業実施区域に要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定はない。

表 3.2-17 土壌汚染対策法に基づく要措置区域及び形質変更時要届出区域の指定状況

整理番号	指定年月日	指定番号	区域の種類	区域の所在場所	区域の面積 (m ²)	基準に適合しない特定有害物質
整-27-7	H27年7月14日	指-101号	要措置区域	深谷市田谷	287.0	砒素及びその化合物、ふっ素及びその化合物
整-27-8	H27年7月14日	指-102号	形質変更時要届出区域	深谷市田谷	87.0	鉛及びその化合物

出典：「指定区域について」（令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ）

(イ) ダイオキシン類

埼玉県では、土壌のダイオキシン類の常時監視測定（一般環境把握調査及び発生源周辺状況調査）を行っている。令和元年度は深谷市内の 8 地点で発生源周辺状況調査が行われている。

測定結果は表 3.2-18 に示すとおりであり、すべての地点で環境基準を達成している。

表 3.2-18 ダイオキシン類発生源周辺状況調査結果

単位：pg-TEQ/g

調査地点		調査結果	環境基準
深谷市	人見	5.2	1,000
	榎合	2.9	
	人見境	2.1	
	境	0.72	
	櫛引	3.9	
	柏合	8.3	
	岡部	5.1	
	櫛挽	3.5	

出典：「土壌常時監視結果 ダイオキシン類」（令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ）

ウ 地盤の状況

対象事業実施区域及びその周囲における平成28年1月1日から令和3年1月1日までの地盤沈下の調査結果は表3.2-19に、調査地点は図3.2-13に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲における過去5年間の地盤沈下の最大変動量は-13.3～-5.6mmであった。

なお、対象事業実施区域に最も近い調査地点（No.1）の調査開始年からの変動量は-5.2mmであった。

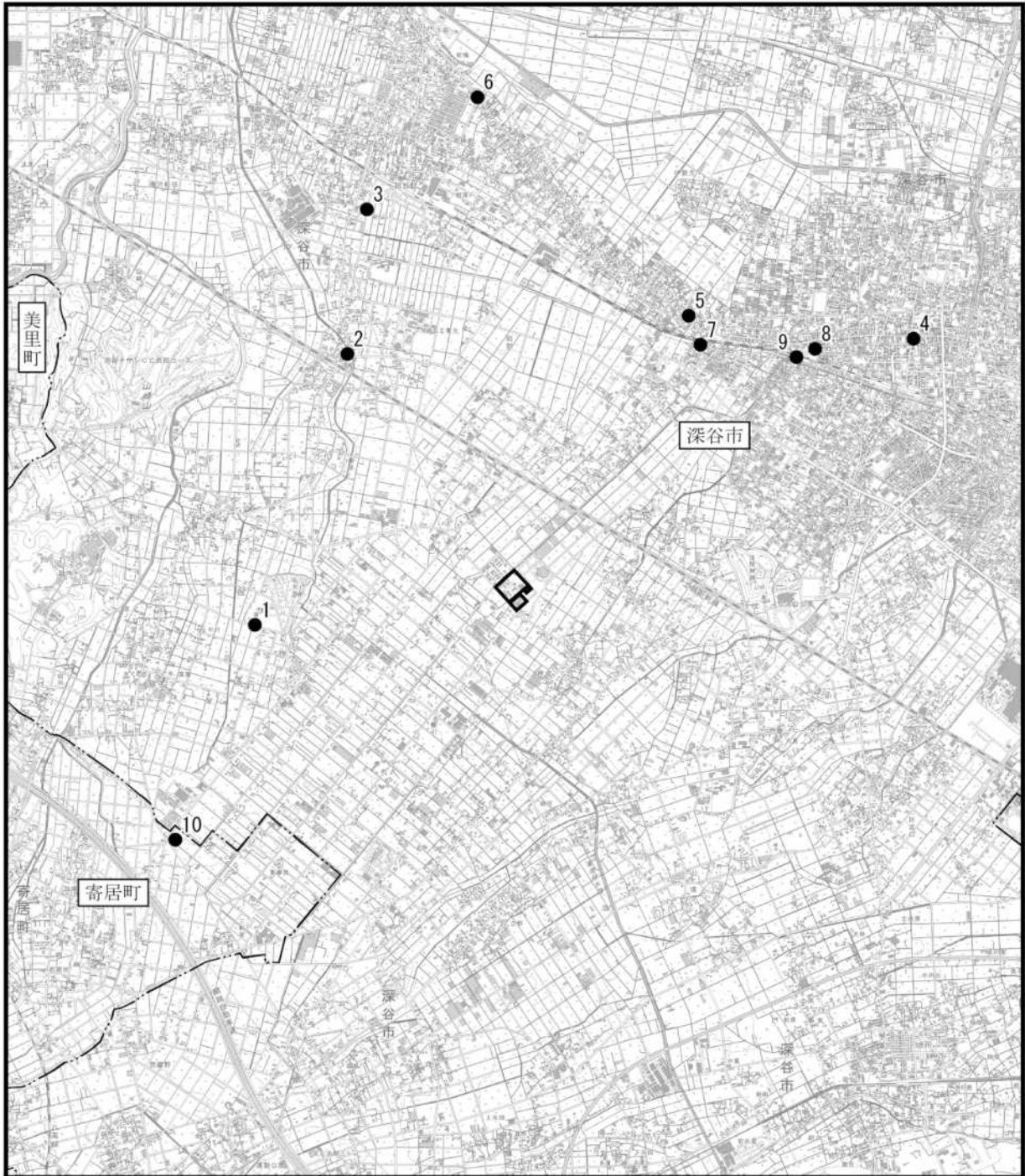
表 3.2-19 地盤沈下の状況(水準測量結果)

No.	調査地点	調査開始年月日	各年別変動量(mm)					過去5年間の変動量(mm)	調査開始年からの変動量(mm)
			平成28.1.1.～	平成29.1.1.～	平成30.1.1.～	平成31.1.1.～	令和2.1.1.～		
			平成29.1.1	平成30.1.1	平成31.1.1	令和2.1.1	令和3.1.1		
1	針ヶ谷506	54.1.1	-	1.9	-3.0	0.9	-0.7	-	-5.2
2	山河636-1	54.1.1	-	1.8	-2.7	-0.2	-1.0	-	-13.1
3	岡2381-1	54.1.1	-	1.9	-1.8	-1.3	-1.7	-	-28.4
4	本住町6	18.1.1	-2.4	-0.8	-3.1	-1.3	-0.5	-8.1	-21.4
5	宿根1	23.1.1	-3.1	-1.3	-1.9	-1.0	-2.0	-9.3	-26.9
6	岡183-3地先	54.1.1	-4.7	0.4	-2.3	-4.3	-2.4	-13.3	-52.9
7	見晴台	18.1.1	-3.1	-1.1	-2.8	0.8	-2.5	-8.7	-24.3
8	田所町8	18.1.1	-2.6	-0.9	-3.6	-1.2	-1.3	-9.6	-25.7
9	田所町18-40	21.1.1	-2.5	-1.0	-4.3	-0.7	-	-	-
10	用土4318-12	54.1.1	-4.2	2.8	-3.3	1.9	-2.8	-5.6	-8.7

注1)No.は図3.2-13と対応している。

注2)No.1,2,3については、平成28年度から再観測している。No.9は令和2年度結果に記載がなかった。

出典：「水準測量成果表等について」（令和4年1月閲覧、埼玉県ホームページ）



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 調査地点

図3.2-13 地盤沈下調査地点位置図

出典：「水準測量成果表等について」
 (令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(4) 地形及び地質の状況

ア 地形の状況

対象事業実施区域及びその周囲の地形分類は、図 3.2-14 に示すとおりである。

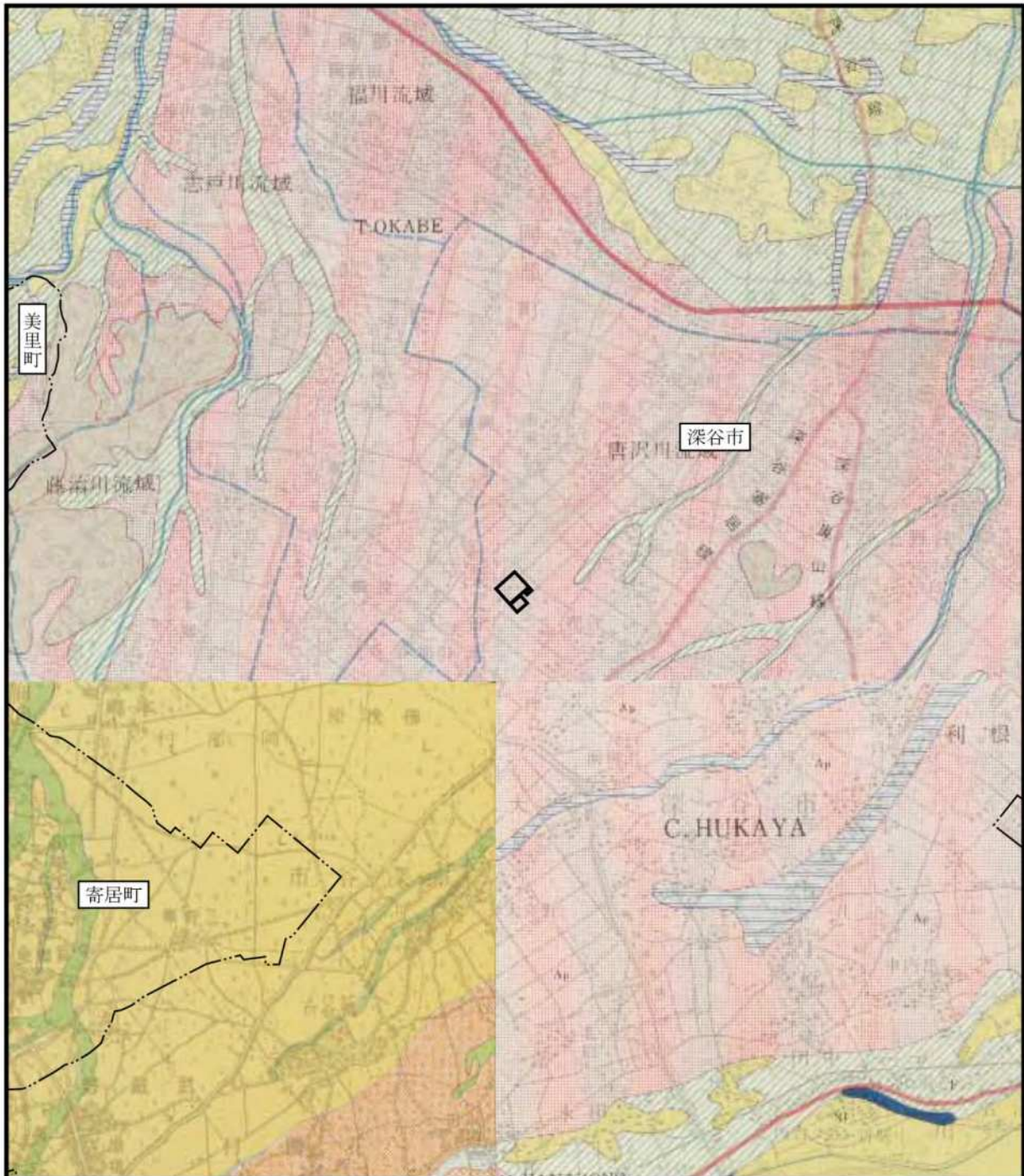
対象事業実施区域及びその周囲は、火山灰台地、小扇状地・沖堆積となっている。

また、対象事業実施区域及びその周囲における重要な地形として、寄居付近の河成段丘が存在する。重要な地形の位置図は、図 3.2-15 に示すとおりである。

イ 地質の状況

対象事業実施区域及びその周辺の表層地質は、図 3.2-16 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲は、ローム、埋設ローム、粘土・砂礫の互層（埼玉層）となっている。



凡例 : 対象事業実施区域 - - - - : 市町界

図3.2-14 地形分類図

【熊谷】

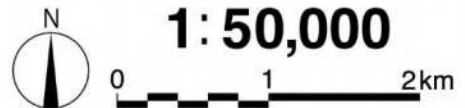
- : 火山灰台地
- : 砂礫台地（河岸段丘）
- : 扇状地
- : 谷底平野
- : 自然堤防
- : 河原（現河道の氾濫原）
- : 台地上の谷
- : 崖

- : 旧流路跡（旧河道）
 - : 国道・県道
- 【寄居】
- : 谷底平野
 - : 異常の洪水時に冠水した部分
 - : 河原・岩石河原
 - : 小扇状地・沖堆積
 - : 旧河道

【高崎・深谷】

- : 丘陵地
- : 丘陵地（残丘）
- : 火山灰台地
- : 谷底平野
- : 扇状地
- : 自然堤防
- : 河原（現河道の氾濫原）
- : 旧流路跡（旧河道）

出典：「地形分類図（熊谷）」（昭和49年3月、埼玉県）
 「地形分類図（寄居）」（昭和39年3月、埼玉県）
 「地形分類図（高崎・深谷）」（昭和54年3月、埼玉県）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

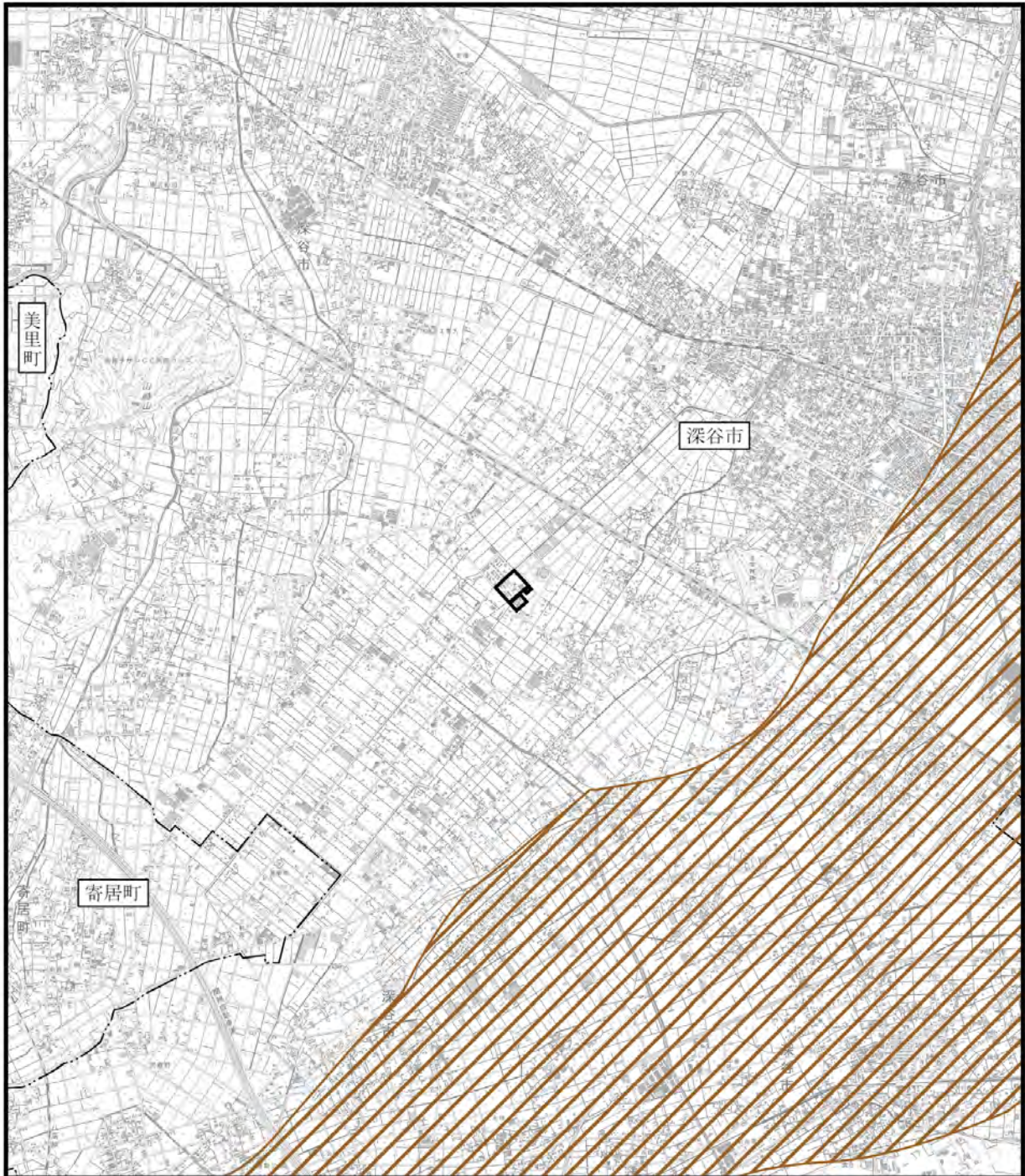



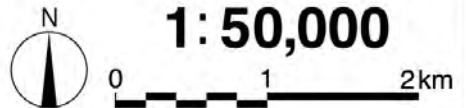


図3.2-15 重要な地形位置図

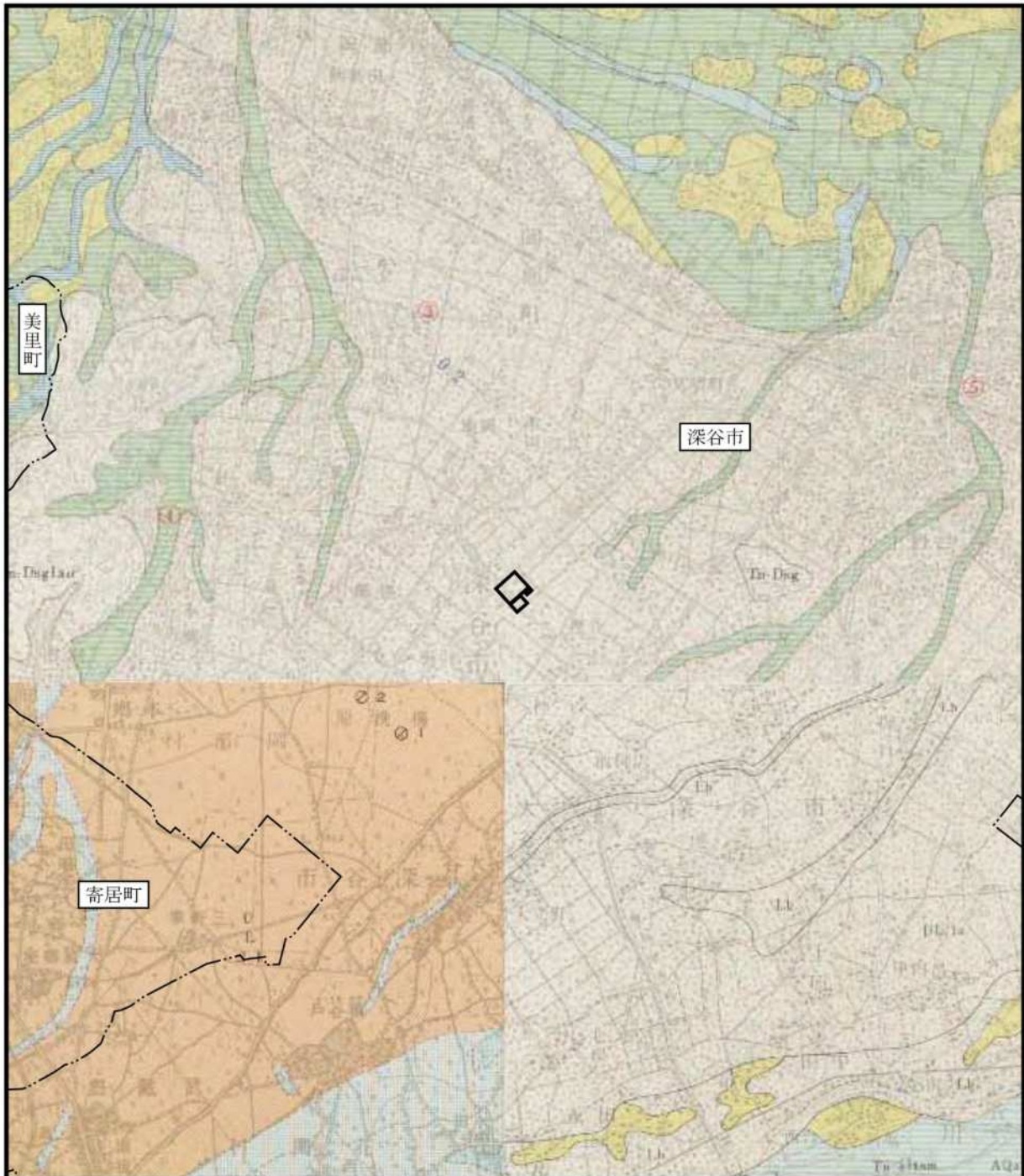
凡 例

-  : 対象事業実施区域
-  : 市町界
-  : 寄居付近の河成段丘

出典：「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 埼玉県」
(平成元年、環境庁)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

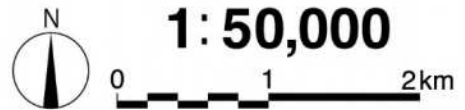


凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界

図3.2-16(1) 表層地質図

出典：「表層地質図（熊谷）」（昭和49年3月、埼玉県）
 「表層地質図（高崎・深谷）」（昭和49年3月、埼玉県）
 「表層地質図（寄居）」（昭和39年3月、埼玉県）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

高崎・深谷

未固結堆積物	Qa	砂泥堆積物（河道・氾濫原）
	Qa	砂泥堆積物（旧流路跡）
	Qa	砂質泥堆積物（自然堤防）
	Qa	泥質礫堆積物（背後湿地、谷地田の腐植土を含む）
半固結堆積物	Qd	砂礫の互層（東京層）
	Qd	粘土・砂礫の互層（埼玉層）
	Qd	粘土・礫の互層（古利根層）
	Sp	砂礫層（浅見山砂礫層）
変成岩	ms	泥岩（富岡層群）
	alt.ms	砂岩・泥岩互層（富岡層群）
	Cg	礫岩（富岡層群）
火山性岩石	Gs	緑色片岩
	Bs	黒色片岩
	L	ローム
	Tr	凝灰岩（富岡層群）
	Sp	蛇紋岩

寄居

未固結堆積物	s	礫
	m	泥
固結堆積物	cl	砕屑物
	cg	礫岩
	ss	砂岩
	Ms	泥岩または頁岩
	alt.ms	砂岩・泥岩互層
	alt.ss	砂岩・頁岩互層
	cl	珪質岩
	Sch	輝緑凝灰岩
	ls	石灰岩
火山性岩石	L	ローム
	Tr	凝灰岩
深成岩	Gr	花崗質岩
	Sp	蛇紋岩
	Qp	石英珪岩
変成岩	Gs	緑色片岩
	Bs	黒色片岩

熊谷

未固結堆積物	Qa	砂泥堆積物（河道・氾濫原）
	Qa	砂泥堆積物（旧流路跡）
	Qa	砂質泥堆積物（自然堤防）
	Qa	泥質礫堆積物（後背湿地）
	Qa	泥質堆積物（谷地田・背後湿地の腐植土）
半固結堆積物	Qd	シルト砂礫の互層（東京層）
	Qd	泥砂の互層（基底礫を含む）（埼玉層）
	Qd	シルト砂礫の互層（古利根層）
	m	粘土
	s	礫層
固結堆積物	cg	礫岩
	cgss	礫岩・砂岩互層
	ss	砂岩
	ms	泥岩
	alt.ms	砂岩・泥岩互層
	alt.ss	砂岩・頁岩互層
	cl	珪質岩
	Sch	輝緑凝灰岩
火山性岩石	Lb	埋没ローム
	L	ローム
	Tr	凝灰岩
深成岩	Gr	花崗岩質岩石
	Sp	蛇紋岩
変成岩	Gs	緑色片岩
	Bs	黒色片岩

図3.2-16(2) 表層地質図凡例

(5) 動物の生息、植物の生育、植生、緑の量及び生態系の状況

対象事業実施区域を含む関係市町に生息する動物相について、表 3.2-20 に示す文献資料を用いて整理した。また、文献資料で確認された種を対象に表 3.2-21 に示す基準に該当する種を重要種として整理した。

表 3.2-20 文献資料一覧

文献番号	文献名	項目
A	埼玉県レッドデータブック動物編 2018 (第 4 版) (埼玉県、2018 年)	動物
B	第 2 回～第 6 回自然環境保全基礎調査 (環境庁、1978 年～2005 年)	動物
C	埼玉県動物誌 (埼玉県教育委員会、1978 年)	動物
D	埼玉県レッドデータブック 2011 植物編 (埼玉県、2011 年)	植物
E	1998 年版埼玉県植物誌 (埼玉県教育委員会、1998 年)	植物
F	第 4 回自然環境保全基礎調査 日本の巨樹・巨木林 (環境庁、1991 年)	巨樹・巨木林
G	第 6 回・7 回自然環境保全基礎調査 植生調査 (環境省 HP より)	植生図

表 3.2-21 (1) 重要種選定基準

No.	選定基準	対象項目	
		動物	植物
①	「文化財保護法」(昭和 25 年法律第 214 号) ・特別天然記念物(特天) ・国指定天然記念物(国天)	○	○
②	「埼玉県文化財保護条例」(昭和 30 年埼玉県条例第 46 号) ・県指定天然記念物(県天)	○	○
③	「熊谷市文化財保護条例」(平成 17 年 10 月 1 日条例第 120 号) 「深谷市文化財保護条例」(平成 18 年 1 月 1 日条例第 122 号) 「寄居町文化財保護条例」(昭和 32 年 2 月 28 日条例第 77 号) ・市町指定天然記念物(市天)	○	○
④	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成 4 年法律第 75 号) ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・特定第一種国内希少野生動植物種(第一) ・特定第二種国内希少野生動植物種(第二) ・緊急指定種(緊急)	○	○
⑤	「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」(平成 12 年埼玉県条例第 11 号) ・県内希少野生動植物種に指定された種(指定) 動物:アカハライモリ、ムサシトミヨ、ソボツチスガリ 植物:アオネカズラ、キレハオオクボシダ、デンジソウ、イトハコベ、オニバス、タマノカンアオイ、サワトラノオ、サクラソウ、チチブイワザクラ、チチブリンドウ、キタミソウ、キバナコウリンカ、ミヤマスカシユリ、トダスゲ、ムギラン、ホテイラン、コ克蘭、トキソウ、ムカデラン	○	○
⑥	「環境省レッドリスト 2020」(令和 2 年 3 月環境省自然環境局野生生物課) ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類(CR) ・絶滅危惧 I B 類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)	○	○
⑦	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年埼玉県)の地帯区分「全県」の指定種 ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I 類(CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類(CR) ・絶滅危惧 I B 類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの(NT1) ・生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの(NT2) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・地帯別危惧(RT)	○	○
	「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」(平成 23 年埼玉県) ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧 I A 類(CR) ・絶滅危惧 I B 類(EN) ・絶滅危惧 II 類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)		

表 3.2-21 (2) 重要種選定基準

No.	選定基準	対象項目	
		動物	植物
⑧	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年埼玉県) の地帯区分「台地・丘陵地」の指定種 ・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 (CR) ・絶滅危惧 IB 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの (NT1) ・生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの (NT2) ・情報不足 (DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) ・地帯別危惧 (RT)	○	
⑨	「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」(平成 30 年埼玉県) の地帯区分「中川・加須低地」の指定種 ・絶滅 (EX) ・野生絶滅 (EW) ・絶滅危惧 I 類 (CR+EN) ・絶滅危惧 I A 類 (CR) ・絶滅危惧 IB 類 (EN) ・絶滅危惧 II 類 (VU) ・準絶滅危惧 (NT) ・環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの (NT1) ・生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの (NT2) ・情報不足 (DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群 (LP) ・地帯別危惧 (RT)	○	

ア 動物

(ア) 動物相及び保全すべき種の状況

「埼玉県レッドデータブック 2018 動物編」によると、調査範囲及びその周辺は、主に台地・丘陵帯及び中川・加須低地に属し、周辺には畑地が多くみられる。

分類群毎の確認種数を表 3.2-22 に示す。文献資料によると関係市町では 1476 種の動物が確認されている。主な確認種はヒミズ、アカネズミ、キツネ等の哺乳類、キジバト、コサギ、ホオジロ等の鳥類、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル等の両生類、ニホンイシガメ、ヒガシニホントカゲ、ヤマカガシ等の爬虫類、ギンヤンマ、トノサマバッタ、ナミアゲハ等の昆虫類、ギンブナ、モツゴ、ミナミメダカ等の魚類、モノアラガイ、ヌカエビ、モクズガニ等の底生動物であった。

表 3.2-22 分類群毎の確認状況 (動物)

分類	目数	科数	種数
哺乳類	7	17	48
鳥類	22	55	241
両生類	2	6	13
爬虫類	2	8	13
昆虫類	17	198	1073
魚類	8	16	44
底生動物	12	27	44
計	70 目	327 科	1476 種

確認された重要種を表 3.2-23～表 3.2-29 に整理した。

関係市町では、計 573 種 (哺乳類 24 種、鳥類 120 種、両生類 11 種、爬虫類 12 種、昆虫類 365 種、魚類 22 種、底生動物 19 種) の重要種が確認された。

表 3.2-23 重要種一覧（哺乳類）

No.	種名	重要種選定基準								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	アズミトガリネズミ						NT	DD		
2	カワネズミ							NT1		
3	ミズラモグラ						NT	NT1		
4	コキクガシラコウモリ							NT1		
5	キクガシラコウモリ							NT1		
6	ヒメホオヒゲコウモリ							NT1		
7	カグヤコウモリ							EN		
8	モリアブラコウモリ						VU	EN		
9	ヤマコウモリ						VU	VU		
10	クビワコウモリ						VU	EN		
11	チチブコウモリ							EN		
12	ウサギコウモリ							NT1		
13	ユビナガコウモリ							EX		
14	コテングコウモリ							NT1		
15	テングコウモリ							NT1		
16	オヒキコウモリ						VU	DD		
17	ホンドモモンガ							NT1		
18	ムササビ							NT1		
19	ヤマネ	国天						NT1		
20	ツキノワグマ				国際			NT2		
21	オオカミ				国際			EX		
22	オコジョ							NT1		
23	カワウソ	特天			国際			EX		
24	カモシカ	特天								
合計	24種	3種	0種	0種	3種	0種	6種	23種	0種	0種

注) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」(令和3年 国土交通省)に従った。

表 3.2-24 (1) 重要種一覧（鳥類）

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	ウズラ						VU	越:CR 繁:CR		越:CR 繁:CR
2	ヤマドリ							越:VU 繁:VU	越:VU 繁:VU	
3	サカツラガン						DD			
4	ヒシクイ	国天					亜種ヒシクイ:VU 亜種オオヒシクイ:NT	越:CR		越:CR
5	マガン	国天					NT	越:CR		越:CR
6	カリガネ						EN	越:EX		越:EX
7	ハクガン						CR			
8	シジュウカラガン				国内		CR	越:EX		越:EX
9	コハクチョウ							越:NT1		越:NT1
10	オオハクチョウ							越:CR		越:CR
11	オシドリ						DD	越:VU 繁:EN	越:VU	越:EN
12	トモエガモ						VU	越:VU	越:VU	越:VU
13	アカエリカイツブリ							越:VU	越:VU	越:VU
14	カンムリカイツブリ							越:VU	越:NT1	越:VU

表 3.2-24 (2) 重要種一覧 (鳥類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
15	ミミカイツブリ							越:DD	越:DD	越:DD
16	ハジロカイツブリ							越:NT1	越:NT1	越:NT1
17	アカオネッタイチョウ						EN			
18	シラコバト						EN	越:EN 繁:EN		越:EN 繁:EN
19	アオバト							繁:RT		
20	シロハラミズナギドリ						DD			
21	サンカノゴイ						EN			
22	ヨシゴイ						NT	繁:VU	繁:EN	繁:VU
23	オオヨシゴイ				国内		CR	繁:EX		繁:EX
24	ミゾゴイ						VU	繁:EN	繁:CR	
25	ササゴイ							繁:EN	繁:EN	繁:EX
26	アマサギ							繁:LP		繁:LP
27	チュウサギ						NT	繁:VU	繁:VU	繁:NT2
28	コサギ							繁:NT2	繁:NT2	繁:NT2
29	クロトキ						DD			
30	ヘラサギ						DD			
31	マナヅル				国際		VU			
32	タンチョウ	特天			国内		VU			
33	クロヅル						DD			
34	クイナ							越:VU	越:EN	越:VU
35	ヒクイナ						NT	繁:CR	繁:CR	繁:CR
36	バン							繁:NT2	繁:VU	繁:NT2
37	オオバン							繁:NT1		繁:NT1
38	ジュウイチ							繁:LP		
39	ホトトギス							繁:RT		
40	ツツドリ							繁:LP		
41	カッコウ							繁:NT2	繁:NT2	繁:NT2
42	ヨタカ						NT	繁:VU	繁:VU	繁:EX
43	ハリオアマツバメ							繁:DD		
44	ヒメアマツバメ							越:VU 繁:LP	越:VU 繁:LP	
45	タゲリ							越:NT2	越:EN	越:NT2
46	ケリ						DD	越:EN 繁:NT1		越:EN 繁:NT1
47	イカルチドリ							繁:NT1	繁:NT1	
48	シロチドリ						VU	繁:LP	繁:LP	繁:LP
49	オオメダイチドリ				国際					
50	ヤマシギ							越:VU	越:NT2	越:VU
51	オオジシギ						NT	繁:CR	繁:CR	
52	タシギ							越:RT		越:NT2
53	オオソリハシシギ						VU			
54	コシャクシギ				国際		EN			
55	ツルシギ						VU			
56	タカブシギ						VU			
57	イソシギ							繁:VU	繁:NT2	繁:VU
58	ハマシギ						NT			
59	タマシギ						VU	越:CR 繁:CR	越:CR 繁:CR	越:CR 繁:CR
60	ツバメチドリ						VU	繁:CR		繁:CR

表 3.2-24 (3) 重要種一覧 (鳥類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
61	コアジサシ				国際		VU	繁:CR	繁:CR	繁:CR
62	アジサシ							繁:DD		繁:DD
63	ミサゴ						NT			
64	ハチクマ						NT	繁:EN	繁:DD	
65	トビ							繁:DD	繁:DD	
66	オジロワシ	国天			国内		VU			
67	チュウヒ				国内		EN	越:EN		越:EN
68	ハイイロチュウヒ							越:EN		越:EN
69	ツミ							繁:NT2	繁:NT2	繁:NT2
70	ハイタカ						NT	越:NT2 繁:DD	越:NT2	越:VU
71	オオタカ						NT	越:VU 繁:VU	越:NT2 繁:VU	越:VU 繁:VU
72	サシバ						VU	繁:CR	繁:CR	繁:EX
73	ノスリ								越:NT2 繁:DD	越:NT2 繁:DD
74	オオコノハズク							越:DD 繁:DD	越:DD 繁:EX	越:DD 繁:EX
75	コノハズク							繁:VU		
76	フクロウ							越:NT2 繁:RT	越:NT2 繁:VU	越:VU 繁:EN
77	アオバズク							繁:NT2	繁:NT2	繁:EN
78	トラフズク							越:EN	越:EN	越:EN
79	コミミズク							越:VU		越:VU
80	アカショウビン							繁:CR	繁:EX	
81	カワセミ							繁:RT		繁:LP
82	ヤマセミ							繁:NT2	繁:EN	
83	ブッポウソウ						EN	繁:CR		
84	アリスイ							越:NT2		越:NT2
85	アオゲラ							繁:RT		繁:DD
86	チョウゲンボウ							繁:NT2	繁:VU	繁:NT2
87	ハヤブサ				国内		VU	越:VU	越:VU	越:VU
88	サンショウクイ						VU	繁:EN	繁:CR	繁:EX
89	サンコウチョウ							繁:EN	繁:CR	繁:EX
90	チゴモズ						CR	繁:CR	繁:CR	
91	アカモズ				国内		EN	繁:CR	繁:CR	繁:EX
92	コガラ							繁:NT2		
93	ヤマガラ							繁:RT	繁:NT2	
94	ヒガラ							繁:RT	繁:VU	
95	コシアカツバメ							繁:DD	繁:DD	
96	ウグイス							繁:RT		
97	ヤブサメ							繁:NT2	繁:VU	
98	メボソムシクイ							繁:NT2		
99	エゾムシクイ							繁:NT2		
100	センダイムシクイ							繁:NT2	繁:CR	
101	オオセッカ				国内		EN	越:DD		越:DD
102	オオヨシキリ							繁:NT2	繁:NT2	繁:NT2
103	コヨシキリ							繁:EN	繁:EN	繁:EN
104	コムクドリ							繁:DD		
105	トラツグミ							繁:NT2	繁:VU	
106	クロツグミ							繁:NT2	繁:VU	

表 3.2-24 (4) 重要種一覧 (鳥類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
107	アカハラ							繁:NT2		
108	コルリ							繁:NT1		
109	ルリビタキ							越:RT		越:NT2
110	コサメビタキ							繁:EN	繁:CR	繁:EX
111	キビタキ							繁:RT	繁:NT1	
112	オオルリ							繁:RT	繁:CR	
113	ニューナイスズメ							越:NT1		越:NT1
114	ベニマシコ							越:RT	越:NT2	越:NT1
115	ホオジロ							繁:RT	繁:NT2	繁:NT2
116	ホオアカ							繁:CR	繁:CR	繁:EX
117	ミヤマホオジロ							越:NT1	越:NT1	越:NT1
118	シマアオジ				国内		CR			
119	クロジ							越:RT	越:NT2	越:NT2
120	コジュリン						VU	越:VU		越:VU
合計	120種	4種	0種	0種	13種	0種	50種	100種	62種	68種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年 日本鳥学会)に従った。

表 3.2-25 重要種一覧 (両生類)

No.	種名	重要種選定基準								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	トウキョウサンショウウオ			市天	第二		VU	EN	EN	
2	アカハライモリ					指定	NT	CR	CR	EX
3	アズマヒキガエル							NT1	VU	NT1
4	ニホンアカガエル							VU	VU	EN
5	ヤマアカガエル							NT2	NT1	
6	トノサマガエル						NT			
7	トウキョウダルマガエル						NT	NT1	NT1	NT1
8	ツチガエル							EN	VU	CR
9	シュレーゲルアオガエル							NT2	NT2	VU
10	モリアオガエル							VU	VU	
11	カジカガエル							NT1	NT1	
合計	11種	0種	0種	1種	1種	1種	4種	10種	10種	6種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」(令和3年 国土交通省)に従った。

表 3.2-26 重要種一覧（爬虫類）

No.	種名	重要種選定基準								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	ニホンイシガメ						NT	DD	DD	DD
2	ニホンスッポン						DD	DD	DD	DD
3	ヒガシニホントカゲ							NT2	NT2	NT1
4	ニホンカナヘビ							RT		NT2
5	タカチホヘビ							VU	VU	
6	シマヘビ							VU	EN	VU
7	アオダイショウ							NT2	NT2	NT1
8	ジムグリ							NT1	NT1	EN
9	シロマダラ							VU	VU	EN
10	ヒバカリ							NT1	NT2	NT1
11	ヤマカガシ							NT1	NT2	NT1
12	ニホンマムシ							NT2	NT2	EN
合計	12種	0種	0種	0種	0種	0種	2種	12種	11種	11種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（令和3年 国土交通省）に従った。

注2) 選定根拠⑦⑧⑨の「繁」は繁殖鳥、「越」は越冬鳥を示す。

表 3.2-27 (1) 重要種一覧（昆虫類）

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	ヒトリガカゲロウ						NT	DD		EN
2	トウヨウモンカゲロウ							VU	VU	VU
3	ミツトゲヒメシロカゲロウ							EX		EX
4	オオセスジイトトンボ						EN	CR		CR
5	ムスジイトトンボ							DD		DD
6	キイトトンボ							NT2	NT2	VU
7	ベニイトトンボ						NT	EN	EX	EN
8	ヒヌマイトトンボ						EN	CR		CR
9	モートンイトトンボ						NT	EN	EN	EN
10	オオモノサシトンボ						EN	EN		EN
11	コバネアオイトトンボ						EN	EX	EX	EX
12	アオハダトンボ						NT	VU	VU	EX
13	ムカシトンボ							NT1	NT1	
14	ムカシヤンマ							VU	VU	
15	ヤマサナエ							NT2	NT2	
16	キイロサナエ						NT	VU	EN	EX
17	クロサナエ							NT1	NT1	
18	ホンサナエ							VU	VU	EX
19	ヒメクロサナエ							NT1	NT1	
20	アオサナエ							NT1	NT1	
21	ヒメサナエ							NT1	NT1	
22	ナゴヤサナエ						VU	VU		EN
23	メガネサナエ						VU	EX	EX	EX
24	ルリボシヤンマ							NT1	NT1	
25	マダラヤンマ						NT	DD	DD	DD
26	オオルリボシヤンマ							VU	VU	
27	ネアカヨシヤンマ						NT	NT2	NT2	DD
28	アオヤンマ						NT	VU	VU	NT1
29	マルタンヤンマ							NT2	NT2	DD

表 3.2-27 (2) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
30	コシボソヤンマ							NT1	NT1	
31	サラサヤンマ							NT2	NT2	VU
32	トラフトンボ							VU	VU	VU
33	キイロヤマトンボ						NT	CR	CR	EX
34	ハネビロエゾトンボ						VU	CR	CR	
35	エゾトンボ							CR	CR	EX
36	ベッコウトンボ		国内					CR	EX	EX
37	ヨツボシトンボ							VU	VU	CR
38	ハラビロトンボ							NT2	NT2	VU
39	ハッチョウトンボ							EX	EX	
40	キトンボ							VU	VU	
41	ヒメアカネ							VU	VU	EN
42	オオキトンボ						EN	CR	EX	CR
43	オナシカワゲラ							VU	DD	VU
44	アサカワヒメカワゲラ							NT2	NT2	VU
45	フライソンアミメカワゲラ						NT	NT2	NT2	
46	ヒメカワゲラ							VU	VU	VU
47	ウスバカマキリ						DD	EN	DD	EN
48	ヒガシキリギリス							NT1	NT2	VU
49	カヤキリ							EN	EX	EN
50	ヒメクサキリ							NT1	NT1	
51	オオクサキリ							CR		CR
52	オナガササキリ							RT		NT2
53	イズササキリ						DD	EN		EN
54	カスミササキリ							EN		EN
55	ササキリモドキ							NT1	NT1	
56	ヒメツユムシ							NT1	NT1	
57	クロスジコバネササキリモドキ							NT2	NT2	
58	クツワムシ							EN	VU	EN
59	エゾツユムシ							NT2	NT2	NT1
60	エゾエンマコオロギ							EN	EN	EN
61	クマコオロギ							NT1	NT2	NT2
62	オオオカメコオロギ							EN	EN	
63	コガタコオロギ							EN	VU	
64	マツムシ							VU	EN	NT1
65	カヤコオロギ							EN	EN	
66	スズムシ							RT		NT1
67	コガタカントン							VU	EN	
68	エゾスズ							RT		NT1
69	アオフキバッタ							RT	NT2	
70	ヤマトフキバッタ							RT	NT2	
71	ヒメフキバッタ							NT1	NT1	
72	ハネナガイナゴ							NT1	NT2	VU
73	セグロイナゴ							VU	NT2	NT1
74	ショウリョウバッタモドキ							NT2	NT2	NT2
75	ナキイナゴ							NT1	VU	
76	ヒナバッタ							NT1		VU
77	ツマグロバッタ							VU	VU	VU
78	クルマバッタ							NT2	NT2	NT2
79	カワラバッタ							EN	EN	EN
80	トゲナナフシ							VU	VU	

表 3.2-27 (3) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
81	トビナナフシ							NT1	NT1	
82	ヤスマツトビナナフシ							NT2	NT2	
83	チビハサミムシ							DD	DD	
84	エゾハサミムシ							LP	LP	
85	キバネハサミムシ							DD	LP	
86	クギヌキハサミムシ							NT2		NT2
87	ガロアムシ							LP	NT2	
88	クロスジオオウンカ							NT1	NT1	NT1
89	アヤヘリハネナガウンカ							NT1	NT1	
90	シリアカハネナガウンカ							NT1	NT1	
91	キスジハネビロウンカ							NT1	NT1	
92	ハウチワウンカ						VU	EN	EN	
93	アリヅカウンカ							NT1	NT1	
94	ハルゼミ							NT1	NT1	
95	チッチゼミ							NT1	NT1	
96	カワムラヨコバイ							VU	VU	
97	オオメノミカメムシ						DD	DD	DD	
98	ムモンミズカメムシ							NT1	NT1	
99	オオアメンボ							NT2	NT2	
100	エサキアメンボ						NT	NT2	NT1	NT2
101	ババアメンボ						NT	NT1	NT1	NT1
102	モンシロミズギワカメムシ							NT1	NT1	
103	コオイムシ						NT	CR	CR	EX
104	タガメ						VU	CR	EX	EX
105	ミヤケミズムシ						NT	CR		CR
106	ミヅナシミズムシ						NT	VU	VU	CR
107	ナベブタムシ							VU	VU	
108	ベニモンマキバサシガメ							NT2	NT2	
109	ビロウドサシガメ							VU	VU	
110	トゲサシガメ							NT1	NT1	NT1
111	アカヘリサシガメ							NT2	NT2	
112	キイロサシガメ							VU	VU	
113	ヒメトゲヘリカメムシ							NT1	NT1	NT1
114	アズキヘリカメムシ							NT1	NT1	
115	シロヘリツチカメムシ						NT	NT2	NT2	
116	チャイロカメムシ							NT2	NT2	
117	イシハラカメムシ							NT1	NT1	
118	イネカメムシ							CR	CR	CR
119	ヒメナガメ							NT2	NT2	
120	イネクロカメムシ							NT2	NT2	NT2
121	クロスジヘビトンボ							NT2	NT2	
122	ヤマトクロスジヘビトンボ							NT2	NT2	
123	クロセンブリ							NT1	NT1	
124	ラクダムシ							VU	VU	
125	プライヤーヒロバカゲロウ							NT2	NT2	
126	ヒメカマキリモドキ							NT2	NT2	
127	キバネツノトンボ							CR	CR	
128	カワラゴミムシ							EN	EN	EN
129	ホソハンミョウ						VU	NT1	NT1	
130	カワラハンミョウ						EN	EX	EX	EX
131	アカガネオサムシ						VU	CR		CR

表 3.2-27 (4) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
132	セアカオサムシ						NT	NT1	NT1	NT1
133	キベリマルクビゴミムシ						EN	CR	CR	
134	フタモンマルクビゴミムシ						EN	CR	EX	CR
135	コハンミョウモドキ						EN	VU	VU	VU
136	オサムシモドキ							EN	EN	EN
137	ハマベミズギワゴミムシ							CR		CR
138	チョウセンゴモクムシ						VU	VU	VU	VU
139	スナハラゴミムシ						VU	CR		CR
140	オオヨツボシゴミムシ							VU	VU	VU
141	イグチケブカゴミムシ						NT	NT1	NT1	NT1
142	クビナガヨツボシゴミムシ						DD	NT2	NT2	NT2
143	ヒトツメアオゴミムシ						NT	NT2	NT2	
144	オオサカアオゴミムシ						DD	EN		EN
145	アオヘリアオゴミムシ						CR	EN	EX	EN
146	クビナガキベリアオゴミムシ						DD	EN		EN
147	チビアオゴミムシ						EN	CR	EX	CR
148	オオトックリゴミムシ						NT	VU	VU	
149	オオヒラタトックリゴミムシ						CR	EX	EX	
150	ハガクビナガゴミムシ						DD	EN	EN	VU
151	クロモンヒラナガゴミムシ							VU	VU	VU
152	アリスアトキリゴミムシ						DD	NT2	NT2	NT2
153	キノコゴミムシ							NT2	NT1	
154	オオアオホソゴミムシ							EX		EX
155	アオバネホソクビゴミムシ							NT1		NT1
156	ヒメホソクビゴミムシ							EN		EN
157	クビボソコガシラミズムシ						DD	CR	EN	CR
158	ヒメコガシラミズムシ							DD	DD	
159	マダラコガシラミズムシ						VU	VU	VU	CR
160	マルケシゲンゴロウ						NT	VU		VU
161	ケシゲンゴロウ						NT	EN	EN	
162	ヒメケシゲンゴロウ						VU	DD	DD	
163	ゴマダラチビゲンゴロウ							NT1	NT1	
164	ヒメシマチビゲンゴロウ							NT1	NT1	
165	コウベツブゲンゴロウ						NT	NT1	NT1	
166	トダセスジゲンゴロウ						VU	EN		EN
167	キベリマメゲンゴロウ						NT			
168	ゲンゴロウ						VU	CR	CR	EX
169	コガタノゲンゴロウ						VU	EX	EX	EX
170	マルガタゲンゴロウ						VU	CR	EX	CR
171	シマゲンゴロウ						NT	NT1	VU	VU
172	オオイチモンジシマゲンゴロウ						EN	VU	VU	
173	オオミズスマシ						NT	CR		CR
174	コオナガミズスマシ						VU	NT1	NT1	
175	オナガミズスマシ							VU	VU	
176	コミズスマシ						EN	DD	DD	
177	ミズスマシ						VU	CR	CR	
178	ヨシトミダルマガムシ							NT2	NT2	
179	シジミガムシ						EN	DD	DD	
180	クナシリシジミガムシ							NT1	NT1	
181	ガムシ						NT	CR	CR	EX
182	ルリエンマムシ							NT2	NT2	NT2

表 3.2-27 (5) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
183	カントウコチビシデムシ							NT1	NT1	NT1
184	ヤマトモンシデムシ						NT	NT1	NT1	VU
185	ヤチハネカクシ						DD	NT1		NT1
186	<i>Deinopsis modesta</i>						DD	NT1		NT1
187	<i>Nazeris ohkurai</i>							NT1	NT1	
188	ナミクシヒゲハネカクシ							NT2	NT2	
189	ペンギンダイコクアリヅカムシ							NT1		NT1
190	<i>Poroderus similis</i>							NT2	NT2	
191	フジヤマダルマアリヅカムシ							NT1	NT1	
192	ヤツメアリヅカムシ							NT1		NT1
193	ネプトクワガタ							VU	VU	
194	クロモンマグソコガネ						NT	NT1		NT1
195	ヒメキイロマグソコガネ						NT	NT1	NT1	NT1
196	オオキイロコガネ							NT1		NT1
197	トラハナムグリ							NT1	NT1	NT1
198	アカマダラコガネ						DD	NT1	NT1	
199	マスダチビヒラタドロムシ							NT1	NT1	
200	キベリナガアシドロムシ							VU	VU	
201	ケスジドロムシ							VU	EX	EX
202	ムナビロツヤドロムシ							NT1	NT1	
203	ウバタマムシ							NT2	NT2	VU
204	アオマダラタマムシ							NT2	NT2	
205	ゲンジボタル							VU	VU	
206	ヘイケボタル							NT1	NT1	VU
207	スジグロボタル							NT2	NT2	
208	キイロジョウカイ							EN	EN	
209	イシハラジョウカイモドキ							VU	VU	VU
210	シベリアユミアシケシキスイ							NT1		NT1
211	シベリアヒゲナガケシキスイ							NT1		NT1
212	トウキョウムネビロオオキノコ							NT1	NT1	
213	ナカイゲミヒメテントウ							NT2		NT2
214	アイヌテントウ							NT2	NT2	
215	ムモンチャイロテントウ							NT2	NT1	NT2
216	クリイロヒゲハナノミ							NT1	NT1	
217	ワタラセミズギワアリモドキ							EN		EN
218	ベニバハナカミキリ							NT2	NT2	
219	ヨツボシカミキリ						EN	EN	EN	EN
220	クスベニカミキリ							NT2	NT2	
221	アカアシオオアオカミキリ							NT2	NT2	VU
222	アオカミキリ							NT1	NT1	VU
223	トラフカミキリ							NT2	NT2	
224	オオトラカミキリ							NT1	VU	
225	ヒメビロウドカミキリ						NT	NT1	NT1	
226	シロスジカミキリ							NT2	NT2	NT2
227	フトネクイハムシ							EN		EN
228	ガガブタネクイハムシ							CR		CR
229	ツヤネクイハムシ							EN	EN	
230	イネネクイハムシ							NT2	NT2	NT2
231	スゲハムシ							EN	EN	
232	オオルリハムシ						NT	VU	CR	VU
233	タグチホソヒラタハムシ							VU	VU	

表 3.2-27 (6) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
234	オオケブカチョッキリ							NT1		NT1
235	オナガカツオゾウムシ							VU	VU	
236	クロイネゾウムシ							NT2	NT2	NT2
237	スゲノハラジロヒメゾウムシ							NT1		NT1
238	ナンブアシブトコバチ							CR	CR	
239	フタツバセイボウ							LP	LP	
240	オオツヤセイボウ						NT	CR	CR	
241	オオセイボウ本土亜種						DD			
242	オオハラナガツチバチ							NT2	VU	NT2
243	マナヅルウロコアリ							LP	LP	
244	トゲアリ							VU		
245	スギハラベッコウ							DD		
246	ヒラカタベッコウ							NT2	NT2	
247	アオスジベッコウ							DD	LP	LP
248	オオハムシドロバチ							DD	CR	CR
249	クチビロハムシドロバチ							NT2	NT2	
250	ヤマトアシナガバチ							DD	EN	EN
251	モンスズメバチ							DD		
252	フジジガバチ							NT	EX	EX
253	アカオビケラトリ							NT	EX	EX
254	ニッポンハヤバチ							NT2	NT2	NT2
255	オオグシニテラ							VU	VU	
256	コウライピソソ							DD	EN	EN
257	コダマジガバチモドキ							EN	EN	
258	ナンブジガバチモドキ							NT2	NT2	
259	サッポロジガバチモドキ							NT1	NT1	
260	サクラトゲアナバチ							EX	EX	
261	ニッポントゲアナバチ							VU	EN	VU
262	オタネギングチ							NT2	NT2	
263	ヤノギングチ							EN	EN	
264	コシジロギングチ							NT2	NT2	
265	キュビギングチ							DD	EN	
266	ムネアカツヤバチ							NT1	NT1	
267	ニッポンアワフキバチ							DD	EN	EN
268	ヤマトスナハキバチ							DD		
269	ニッポンハナダカバチ							VU	CR	CR
270	キスジツチスガリ							NT1		NT1
271	ソボツチスガリ						指定	CR	CR	
272	トゲアシヒメハナバチ							NT2	NT2	
273	シロスジケアシハナバチ							NT1		NT1
274	キョウトハキリバチ							NT2	NT2	
275	フルカワフトハキリバチ							DD	VU	VU
276	ルリモンハナバチ							DD		
277	クロマルハナバチ							NT	DD	DD
278	ガガンボモドキ							VU	VU	
279	トワダオオカ							NT1	NT1	
280	ハマダラハルカ							DD	NT1	NT1
281	ネグロクサアブ							DD	NT2	NT2
282	ヒメキイロコウカアブ							NT2	NT2	
283	タイワンヒメアブ							VU	VU	
284	マツムラヒメアブ							NT2	NT2	

表 3.2-27 (7) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
285	タイワンハラボソツリアブ							NT2	NT2	
286	スズキハラボソツリアブ							NT2	NT2	
287	ヒゲナガムシヒキ							VU	VU	
288	ブサロクロハナアブ							VU	VU	
289	ニトベベッコウハナアブ							NT2	NT2	
290	スズキベッコウハナアブ							NT2	NT2	
291	シコクモモフトハナアブ							NT1	NT1	
292	カワムラムモフトハナアブ							NT2	NT2	
293	ヒサマツハチモドキハナアブ							NT2	NT2	
294	ハチモドキハナアブ							NT2	NT2	
295	ケブカハチモドキハナアブ							NT1	NT1	
296	カクモンアシフトハナアブ							NT2	NT2	
297	ミケハラフトハナアブ							NT1	NT1	
298	タカオハナアブ							NT1	NT1	
299	コシアキオオモモフトハナアブ							NT1	NT1	
300	シロスジナガハナアブ							NT2	NT2	
301	ヒメバチモドキハナアブ							NT2	NT2	
302	ジョウザンナガハナアブ							NT2	NT2	
303	フタオビアリノスアブ							NT2	NT2	
304	コブアリノスアブ							NT2	NT2	
305	オオハチモドキバエ							NT2	NT2	
306	コマダラハチモドキバエ							NT2	NT2	
307	ヤマトヤチバエ							NT2	NT2	
308	Tetanocera chosenica							VU	VU	
309	フタスジヤチバエ							NT2	NT2	NT2
310	カエルキンバエ						DD	NT2		NT2
311	フルトネニクバエ							VU		VU
312	キイロコガネヤドリバエ							NT2	NT2	
313	セスジナガハリバエ							NT2	NT2	
314	ダイミョウヒラタハナバエ							NT1	NT1	
315	ムナグロナガレトビケラ							NT	NT2	
316	コバントビケラ							NT	NT2	
317	ホソバトビケラ							NT	NT1	
318	アシナガモモフトスカシバ						VU	NT1		NT1
319	ヤホシホソマダラ						NT	DD	DD	
320	ミヤマセセリ							NT1	NT1	
321	ホソバセセリ							NT2	NT2	
322	ギンイチモンジセセリ						NT	NT2	NT2	
323	オオチャバネセセリ							NT2	NT2	NT2
324	コチャバネセセリ							NT2		NT2
325	ツマグロキチョウ						EN	EN	EN	EX
326	オナガシジミ							NT1	CR	
327	ウラゴマダラシジミ							VU	NT1	
328	コツバメ							NT2	NT2	
329	オオミドリシジミ							NT1		
330	クロミドリシジミ							VU	VU	
331	ウラクロシジミ							NT2	NT2	
332	ミヤマシジミ						EN	CR	CR	EX
333	ミドリシジミ							NT1	NT1	NT1
334	クロシジミ						EN	EX	EX	EX
335	ムモンアカシジミ							CR	EX	

表 3.2-27 (8) 重要種一覧 (昆虫類)

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
336	カラスシジミ							VU	NT1	
337	ゴイシシジミ							NT2		NT2
338	クロツバメシジミ東日本亜種						NT	VU	VU	
339	ウラキンシジミ							NT2	VU	
340	ダイセンシジミ							VU	DD	
341	シルビアシジミ本土亜種						EN	EX	EX	EX
342	ウラギンスジヒョウモン						VU	VU	NT2	
343	オオウラギンスジヒョウモン							NT2	NT2	NT2
344	メスグロヒョウモン							NT2	NT2	CR
345	ウラギンヒョウモン							NT2	NT2	CR
346	アサマイチモンジ							NT2	NT2	
347	クモガタヒョウモン							NT2	NT2	
348	オオミスジ							NT1	EX	
349	ミスジチョウ							NT2	VU	
350	ヒオドシチョウ							VU	VU	VU
351	オオムラサキ						NT	VU	NT1	EX
352	ジャノメチョウ							NT2	NT1	EX
353	クワトゲエダシャク						NT	DD	DD	
354	フチグロトゲエダシャク							NT1	DD	
355	イボタガ							RT	EN	CR
356	オナガミズアオ						NT	RT	NT1	LP
357	ヤママユ							RT	NT2	EN
358	エゾヨツメ							RT	EN	
359	ウスミモンキリガ						NT	NT1	NT1	
360	ミスジキリガ						NT	DD	DD	
361	イチモジヒメヨトウ						VU	NT2		NT2
362	トビイロリンガ							DD	DD	
363	コシロシタバ						NT			
364	キシタアツバ						NT			
365	ハスオビアツバ							NT1	NT1	NT1
合計	365種	0種	1種	0種	0種	1種	117種	356種	302種	158種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「日本産野生生物目録(無脊椎動物編II)」(平成7年 環境庁)に従った。

表 3.2-28 重要種一覧（魚類）

No.	種名	重要種選定基準								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	スナヤツメ北方種						VU	CR		
2	スナヤツメ南方種						VU	CR		
3	ニホンウナギ						EN	NT2		
4	ゲンゴロウブナ ^{注2}						※EN			
5	キンブナ						VU	VU		
6	ミヤコタナゴ	国天	県天		国内		CR	EW		
7	ヤリタナゴ						NT	CR		
8	タナゴ						EN	EX		
9	ゼニタナゴ						CR	EX		
10	ハス ^{注3}						※VU			
11	ヒガイ類 ^{注4}						※			
12	スゴモロコ ^{注5}						※VU			
13	ドジョウ類 ^{注6}						※			
14	ホトケドジョウ						EN	CR		
15	ギバチ						VU			
16	アカザ						VU			
17	ワカサギ							NT1		
18	ニッコウイワナ						DD	VU		
19	サクラマス（ヤマメ）						NT	VU		
20	ムサシトミヨ					指定	CR	CR		
21	ミナミメダカ						VU	NT2		
22	ジュズカケハゼ						NT			
合計	22種	1種	1種	0種	1種	1種	21種	14種	0種	0種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（令和3年 国土交通省）に従った。

注2) ゲンゴロウブナは⑥ENに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注3) ハスは⑥VUに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注4) ヒガイ類として文献に掲載されている。カワヒガイの場合は⑥NTに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注5) スゴモロコは⑥VUに該当するが、埼玉県では国内外来種に該当する。

注6) ドジョウ類は、文献にドジョウとして掲載されている。埼玉県には近年分類されたドジョウまたはキタドジョウが分布し、ドジョウの場合は⑤NT、キタドジョウの場合は⑤DDに該当する。

表 3.2-29 重要種一覧（底生動物）

No.	種名	選定根拠及び指定状況								
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
1	ナミウズムシ							LP	LP	
2	マルタニシ						VU	VU	VU	NT2
3	オオタニシ						NT	VU	VU	
4	モノアラガイ						NT	NT2	NT2	DD
5	カワネジガイ						CR	EX		EX
6	ヒラマキミズマイマイ						DD	NT2	DD	DD
7	ミズコハクガイ						VU	LP		LP
8	トウキョウヒラマキガイ						DD	LP		LP
9	ヒラマキガイモドキ						NT	LP		LP
10	カワコザラガイ						CR	VU		DD
11	カラスガイ						EN	VU		VU
12	ヨコハマシジラガイ						NT	NT2	NT2	
13	イシガイ							NT2	NT2	
14	マツカサガイ広域分布種							EN	EN	
15	ドブガイ ^{注2}							NT2	NT2	NT2
16	マシジミ						VU			
17	ドブシジミ							NT2		VU
18	ヌカエビ							NT2		
19	サワガニ							NT2		
合計	19種	0種	0種	0種	0種	0種	12種	18種	9種	11種

注1) 種名、科の配列等は、原則として「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度」（令和3年 国土交通省）に従った。

注2) ドブガイは、近年の分類で細分化され、種としてのドブガイは存在しない。本種については便宜的に「日本産野生生物目録」（平成10年 環境庁）に準拠した。

イ 植物

(ア) 植物相及び保全すべき種の状況

「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編」によると、調査範囲及びその周辺は主に標高 50～200m 未満の丘陵北及び、標高 50m 未満の加須・中川低地に属している。

分類群毎の確認状況を表 3.2-30 に示す。文献資料によると、関係市町では 158 科 1,323 種の維管束植物が確認されている。主な確認種はヒカゲノカズラ、スギナ、ベニシダ等のシダ植物、アカマツ、イヌガヤ等の裸子植物、イヌシデ、コナラ、スベリヒユ、ナズナ等の双子葉植物、オモダカ、クサイ、コヌカグサ、ススキ等の単子葉植物であった。

表 3.2-30 分類群毎の確認状況（植物）

分 類	科	種類
高等植物	158	1,323
シダ植物	22	121
種子植物	136	1,202
裸子植物	4	8
被子植物	132	1,194
双子葉植物	111	851
離弁花類	77	551
合弁花類	34	300
単子葉植物	21	343

確認された重要種を表 3.2-31 に整理した。

関係市町では、計 73 科 230 種の重要種が確認された。

表 3.2-31 (1) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
1	イワヒバ	イワヒバ							NT	
2	ミズニラ	ミズニラ						NT	VU	
3	トクサ	イヌスギナ							NT	
4	ハナヤスリ	アカハナワラビ							NT	
5		ナツノハナワラビ							NT	
6		トネハナヤスリ						VU	CR	
7		コヒロハハナヤスリ							VU	
8		コハナヤスリ							EN	
9	ゼンマイ	ヤシャゼンマイ							VU	
10	ウラジロ	ウラジロ							NT	
11	コバノイシカグマ	コバノイシカグマ							NT	
12	ミズワラビ	ミズワラビ							NT	
13		ヒメウラジロ						VU	VU	
14		ミヤマウラジロ							NT	
15	チャセンシダ	トキワトラノオ							VU	
16		クモノスシダ							NT	
17	オシダ	オオカナワラビ							NT	
18		シノブカグマ							NT	
19		キヨシミヒメワラビ							NT	
20		イワヘゴ							NT	
21		マルバベニシダ							NT	
22		ギフベニシダ							DD	
23		ナガバノイタチシダ							EN	
24		サイゴクイノデ							VU	
25		オオキヨスミシダ							EN	
26		メシダ	ウスヒメワラビ							NT
27	イワウサギシダ								VU	
28	キンモウワラビ							VU	VU	
29	コガネシダ								VU	
30	デンジソウ	デンジソウ					指定	VU	CR	
31	サンショウモ	サンショウモ						VU	EN	
32	アカウキクサ	アカウキクサ						EN	DD	
33	クワ	ヤマグワ (榎合 34 の山桑)			市天					
34	イラクサ	トキホコリ						VU	VU	
35		ホソバイラクサ								DD
36	タデ	ヒメタデ						VU	EN	
37		ホソバイヌタデ							NT	EN
38		シロバナサクラタデ								NT
39		ヌカボタデ							VU	EN
40		コギシギシ							VU	VU
41	ナデシコ	ナンバンハコベ							NT	
42		カワラナデシコ							VU	
43		ヒゲネワチガイソウ								NT
44		イトハコベ						指定	VU	CR
45	アカザ	ミドリアカザ							CR	EN
46		カワラアカザ								EN
47	マツブサ	チョウセンゴミシ							EN	
48	キンポウゲ	フクジュソウ								NT
49		イチリンソウ								NT

表 3.2-31 (2) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
50	キンボウゲ	アズマイチゲ							NT
51		ヒメウズ							VU
52		カザグルマ						NT	EN
53		トウゴクサバノオ							NT
54		オキナグサ						VU	CR
55		コキツネノボタン						VU	EN
56		バイカモ							EN
57		セツブンソウ						NT	NT
58		ノカラマツ						VU	VU
59		メギ	イカリソウ						NT
60	ツツラフジ	コウモリカズラ						NT	
61	スイレン	オニバス					指定	VU	CR
62		コウホネ							NT
63	マツモ	マツモ						VU	
64	ドクダミ	ハンゲショウ						VU	
65	ウマノスズクサ	ウスバサイシン						NT	
66		カンアオイ							NT
67	オトギリソウ	アゼオトギリ					EN	CR	
68	ケシ	ヤマブキソウ						NT	
69	アブラナ	ハタザオ						VU	
70		コイヌガラシ					NT	NT	
71	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ						VU	
72		ツメレンゲ					NT	EN	
73	ユキノシタ	ネコノメソウ						NT	
74		タコノアシ					NT	VU	
75		ヤブサンザシ						VU	
76	バラ	カワラサイコ						VU	
77		ナガボノシロワレモコウ						NT	
78	マメ	タヌキマメ						CR	
79		イヌハギ					VU	VU	
80	トウダイグサ	ノウルシ					NT	VU	
81		ヤマアイ						CR	
82	ドクウツギ	ドクウツギ						EN	
83	スマレ	タチスマレ					VU	CR	
84		アケボノスマレ						NT	
85		ヒゴスマレ						NT	
86	ウリ	ゴキツル						VU	
87	ミソハギ	ヒメミソハギ						NT	
88		エゾミソハギ						EN	
89		ミズマツバ					VU	VU	
90	ヒシ	ヒメビシ					VU	EN	
91		ヒシ						NT	
92		オニビシ						NT	
93	アカバナ	ウスゲチョウジタデ					NT	VU	
94		ミズユキノシタ						CR	
95	アリノトウグサ	ホザキノフサモ						EN	
96		フサモ						NT	
97	セリ	ホタルサイコ						NT	
98		イブキボウフウ						VU	

表 3.2-31 (3) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準							
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
99	イチヤクソウ	シャクジョウソウ								NT
100	サクラソウ	ノジトラノオ							VU	EN
101		ヌマトラノオ								NT
102		クサレダマ								CR
103	マチン	ヒメナエ							VU	CR
104		アイナエ								NT
105	リンドウ	コケリンドウ								EN
106		センブリ								VU
107	ミツガシワ	ヒメシロアサザ							VU	EN
108		ガガブタ							NT	CR
109		アサザ							NT	VU
110	キョウチクトウ	チョウジソウ							NT	EN
111	ガガイモ	タチガシワ								NT
112		スズサイコ							NT	EN
113		コカモメヅル								NT
114	アカネ	キクムグラ								NT
115		ハナムグラ							VU	EN
116	ヒルガオ	マメダオシ							CR	EN
117	ムラサキ	ホタルカズラ								VU
118	クマツヅラ	クマツヅラ								VU
119	シソ	ミゾコウジュ							NT	NT
120		ヒメナミキ								EN
121	ゴマノハグサ	アブノメ								NT
122		オオアブノメ							VU	EN
123		シソクサ								EN
124		キクモ								NT
125		キタミソウ						指定	VU	EN
126		ママコナ								NT
127		ヒキヨモギ								NT
128		イヌノフグリ							VU	NT
129		カワヂシャ							NT	VU
130		キツネノマゴ	ハグロソウ							
131	タヌキモ	タヌキモ							NT	CR
132	オミナエシ	ツルカノコソウ								NT
133	キク	カワラハハコ								VU
134		カワラヨモギ								VU
135		ヒメシオン								VU
136		タウコギ								NT
137		テバコモミジガサ								NT
138		オオガンクビソウ								NT
139		アワコガネギク							NT	NT
140		アキノハハコグサ							EN	CR
141		オグルマ								NT
142		ホソバオグルマ							VU	EN
143		カセンソウ								NT
144		ノニガナ								NT
145		カワラニガナ							NT	VU
146		ミヤコアザミ								EN
147		タカオヒゴタイ								CR

表 3.2-31 (4) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
148	キク	ハバヤマボクチ							VU
149		オナモミ						VU	VU
150	オモダカ	ヘラオモダカ							NT
151		サジオモダカ							EN
152		アギナシ						NT	CR
153		ウリカワ							NT
154		トチカガミ	クロモ						
155	トチカガミ							NT	VU
156	ミズオオバコ							VU	VU
157	セキショウモ								NT
158	コウガイモ								VU
159	ヒルムシロ	エビモ							NT
160		ヒルムシロ							NT
161		センニンモ							NT
162		ササバモ							NT
163		ヤナギモ							NT
164		イトモ						NT	VU
165	イバラモ	ホッスモ							DD
166		イトトリゲモ						NT	DD
167		トリゲモ						VU	EN
168	ユリ	ノギラン							NT
169		ヒメニラ							NT
170		キジカクシ							NT
171		ステゴビル						VU	EN
172		カタクリ							NT
173		キバナノアマナ							NT
174		ゼンテイカ							VU
175		ワニグチソウ							NT
176		アマナ							NT
177	ヒガンバナ	キツネノカミソリ							NT
178	アヤメ	カキツバタ						NT	CR
179	ホシクサ	ホシクサ							EN
180		イヌノヒゲ							EN
181		ヒロハイヌノヒゲ							VU
182	イネ	セトガヤ							NT
183		アズマガヤ							NT
184		カリマタガヤ							VU
185		セイタカヨシ							VU
186		ウキシバ							VU
187		ウシクサ							NT
188	ヒゲシバ							NT	
189	サトイモ	ヒロハテンナンショウ							EN
190		マイヅルテンナンショウ						VU	CR
191		ウラシマソウ							NT
192		ザゼンソウ							EN
193	ミクリ	ミクリ						NT	NT
194	カヤツリグサ	ヌマアゼスゲ						VU	CR
195		サナギスゲ							VU
196		ヤマアゼスゲ							NT

表 3.2-31 (5) 重要種一覧 (維管束植物)

No.	科名	種名	重要種選定基準						
			①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
197	カヤツリグサ	ウマスゲ							NT
198		アズマスゲ							NT
199		タチスゲ							NT
200		ヒメシラスゲ							VU
201		ヤチカワズスゲ							EX
202		タカネマスクサ							NT
203		タヌキラン							VU
204		オニナルコスゲ							EN
205		カンエンガヤツリ						VU	VU
206		シロガヤツリ							VU
207		ミズハナビ							VU
208		コツブヌマハリイ						VU	CR
209		コアゼテンツキ							NT
210		ノテンツキ							EN
211		アゼテンツキ							EN
212		コイヌノハナヒゲ							DD
213	ヒメホタルイ							VU	
214	タタラカンガレイ							CR	
215	コマツカサススキ							EN	
216	マツカサススキ							NT	
217	ラン	シラン						NT	EN
218		エビネ						NT	EN
219		ギンラン							VU
220		キンラン						VU	EN
221		ササバギンラン							NT
222		シュンラン							NT
223		オニノヤガラ							VU
224		アキザキヤツシロラン							EN
225		クモキリソウ							NT
226		コ克蘭					指定		EN
227		オオバノトンボソウ							NT
228		トキソウ					指定	NT	CR
229		カヤラン							NT
230		ハクウンラン							EN
合計	73 科	230 種	0 種	0 種	1 種	0 種	6 種	67 種	229 種

注 1) 種名、科の配列等は、原則として「植物目録 1987」(昭和 62 年 環境庁)に従った。

(イ) 巨樹・巨木林

「自然環境基礎調査 巨樹・巨木林（第4回・第6回）」に該当する樹木の位置を図3.2-17に示す。

調査範囲及びその周辺において、ケヤキやクスノキ等の25本の巨樹・巨木に該当する樹木が確認された。調査範囲内ではケヤキが3本確認されているが、対象事業実施区域から2km以上離れており、対象事業実施区域及びその近傍に巨樹・巨木に該当する樹木はみられなかった。

表 3.2-32 確認された巨樹・巨木林に該当する樹木

科名	樹種名	本数		合計
		調査範囲内	調査範囲外	
イチョウ	イチョウ		2	2
イチイ	カヤ		2	2
ブナ	シラカシ		1	1
ニレ	ムクノキ		2	2
	エノキ		2	2
	ケヤキ	3	11	14
クスノキ	クスノキ		2	2
合計		3	22	25

(ウ) 天然記念物

調査範囲及びその周辺で確認された天然記念物の位置を図3.2-17に示す。

埼玉県及び深谷市のホームページ※によると、調査範囲及びその周辺において、深谷市指定の天然記念物が2か所で確認された。調査範囲内で確認された天然記念物を表3.2-33に示す。なお、国指定、県指定の天然記念物はみられなかった。

表 3.2-33 調査範囲内に位置する天然記念物

指定	記号番号 ^{注1)}	名称	所在地	所有者
深谷市	天2	山桑（やまくわ）	埼玉県深谷市榎合34	個人

注1) 深谷市のホームページにおける記号番号

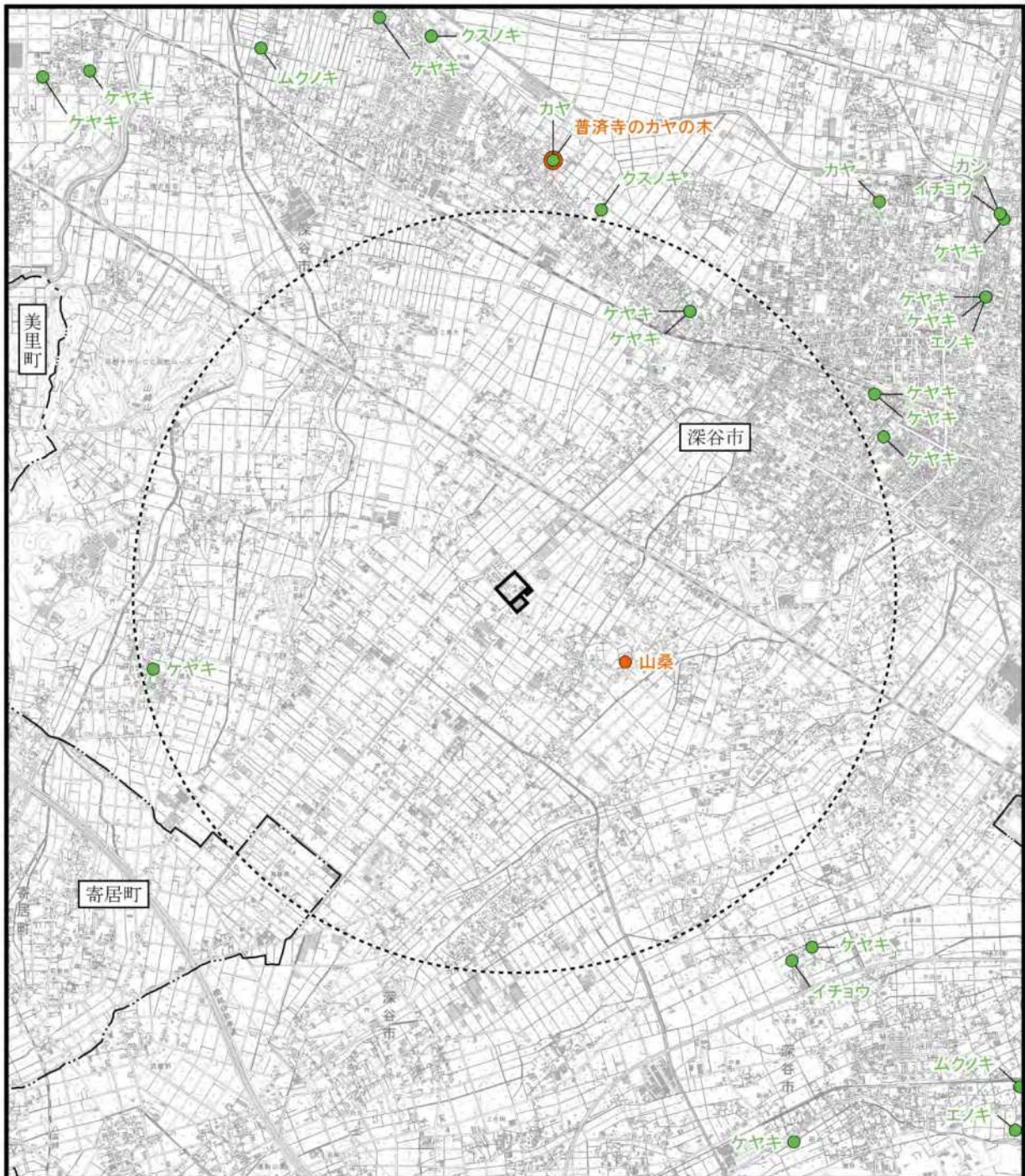
※参考資料

埼玉県教育委員会。"埼玉県内の国・県指定等文化財"。埼玉県ホームページ。

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2216/bunkazai-kensu.html>, (参照 2021-8-26)

深谷市。"深谷市の歴史と文化財"。深谷市ホームページ。

http://www.city.fukaya.saitama.jp/rekishi_bunkazai/shinobunkazai/fukayashishiteinobunkazai/kinenbutu/1391732439603.html, (参照 2021-8-26)

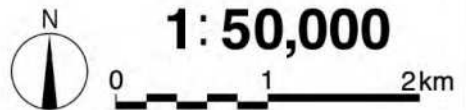


凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 調査範囲

- : 巨樹・巨木林
- : 天然記念物（市指定）

図3.2-17 巨樹・巨木林及び天然記念物位置



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

ウ 植生

(ア) 現存植生

調査範囲及びその周辺の現存植生を図 3.2-18 に示す。

調査範囲内は広く耕作地として利用されており、畑雑草群落は広範囲を占め、一部で水田雑草群落は分布している。樹林は比較的少なく、主な樹林としては対象事業実施区域の東側の浅間神社にクスギーコナラ群集が分布するほか、南西側に残存・植栽樹群地が帯状に幾重にも配置されている。また、対象事業実施区域の北東側に市街地がまとまってみられる。

対象事業実施区域は工場地帯として区分されており、現在は「深谷清掃センター」として稼働中である。

(イ) 植生自然度及び希少な群落

調査範囲内で確認された群落及びその植生自然度の一覧を表 3.2-34 に示す。

調査範囲内において、植生自然度の高い群落（自然林）としてヤブコウジースダジイ群集がみられるが、対象事業実施区域から北東側に 2.5km 以上離れた場所である。なお、「埼玉県レッドデータブック 2011 植物編（埼玉県、2011 年）」における希少な群落は確認されなかった。

表 3.2-34 調査範囲内で確認された群落及びその植生自然度

植生自然度	区分内容	群落名
9	自然林	ヤブコウジースダジイ群集
7	二次林	クスギーコナラ群集
6	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林
4	二次草原（背の低い草原）	ゴルフ場・芝地
		路傍・空地雑草群落
3	外来種植林、農耕地（樹園地）	果樹園
		残存・植栽樹群地
2	外来種草原、農耕地（水田・畑）	畑雑草群落
		水田雑草群落
		緑の多い住宅地
1	市街地等	市街地
		工場地帯
		造成地
-	-	開放水域

(ウ) 特定植物群落

調査範囲には、特定植物群落に該当する群落は確認されなかった。

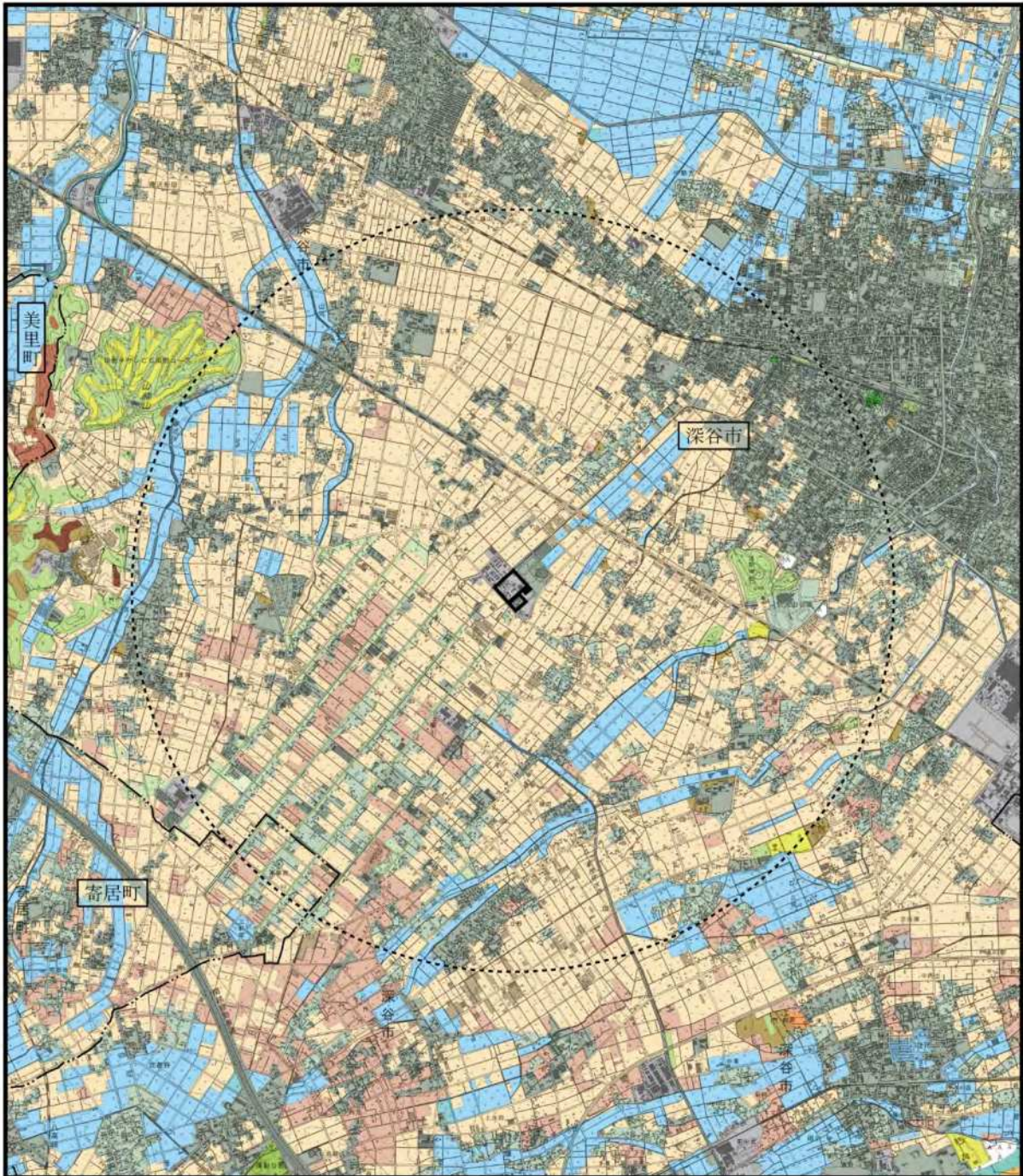
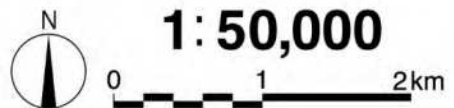


図3.2-18 現存植生図

凡例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- - - : 調査範囲

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ヤブコウジースタジイ群集 クヌギーコナラ群集 アカマツ群落(VII) ヤマツツジーアカマツ群集 オギ群集 スギ・ヒノキ・サワラ植林 その他植林 モウソウチク林 ゴルフ場・芝地 路傍・空地雑草群落 放棄畑雑草群落 | <ul style="list-style-type: none"> 果樹園 畑雑草群落 水田雑草群落 放棄水田雑草群落 市街地 緑の多い住宅地 残存・植栽樹群をもった公園、墓地等 | <ul style="list-style-type: none"> 工場地帯造成地 開放水域 自然裸地 残存・植栽樹群地 |
|---|---|---|



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

エ 緑の量

調査範囲内は広く畑として利用されているほか、一部で水田がみられる。また、浅間神社や植栽樹群等の樹林地を含んでいる。耕作地を緑に含めると調査範囲の緑被割合は高い。

オ 生態系

対象事業実施区域は、既に稼働中の「深谷清掃センター」であり、敷地内には小規模な草地、樹林がみられる。

調査範囲内は畑地が多く、所々に水田、果樹園、住宅地がみられるほか、対象事業実施区域の北西及び南側には水路がみられる。対象事業実施区域の北西側には浅間神社の樹林、南西側には帯状の樹林がみられる。南西側の樹林については埼玉県が「ふるさと緑の景観地」と指定し、保全している。

このような環境を反映して、樹林地では生産者としてスタジイ、コナラ、ヤブコウジ等の植物、一時消費者としてアカネズミ等の哺乳類、キジバト、カケス等の鳥類、アブラゼミ、クサギカメムシ、アオスジアゲハ等の昆虫類、中位消費者として、アズマモグラ、アブラコウモリ等の哺乳類、ホトトギス、ムクドリ等の鳥類、ビロウドサシガメ、アオオサムシ等の昆虫類、上位消費者として、タヌキ、イタチ等の哺乳類やトビ、ノスリ等の鳥類が生息する生態系が構築されているものと考えられる。

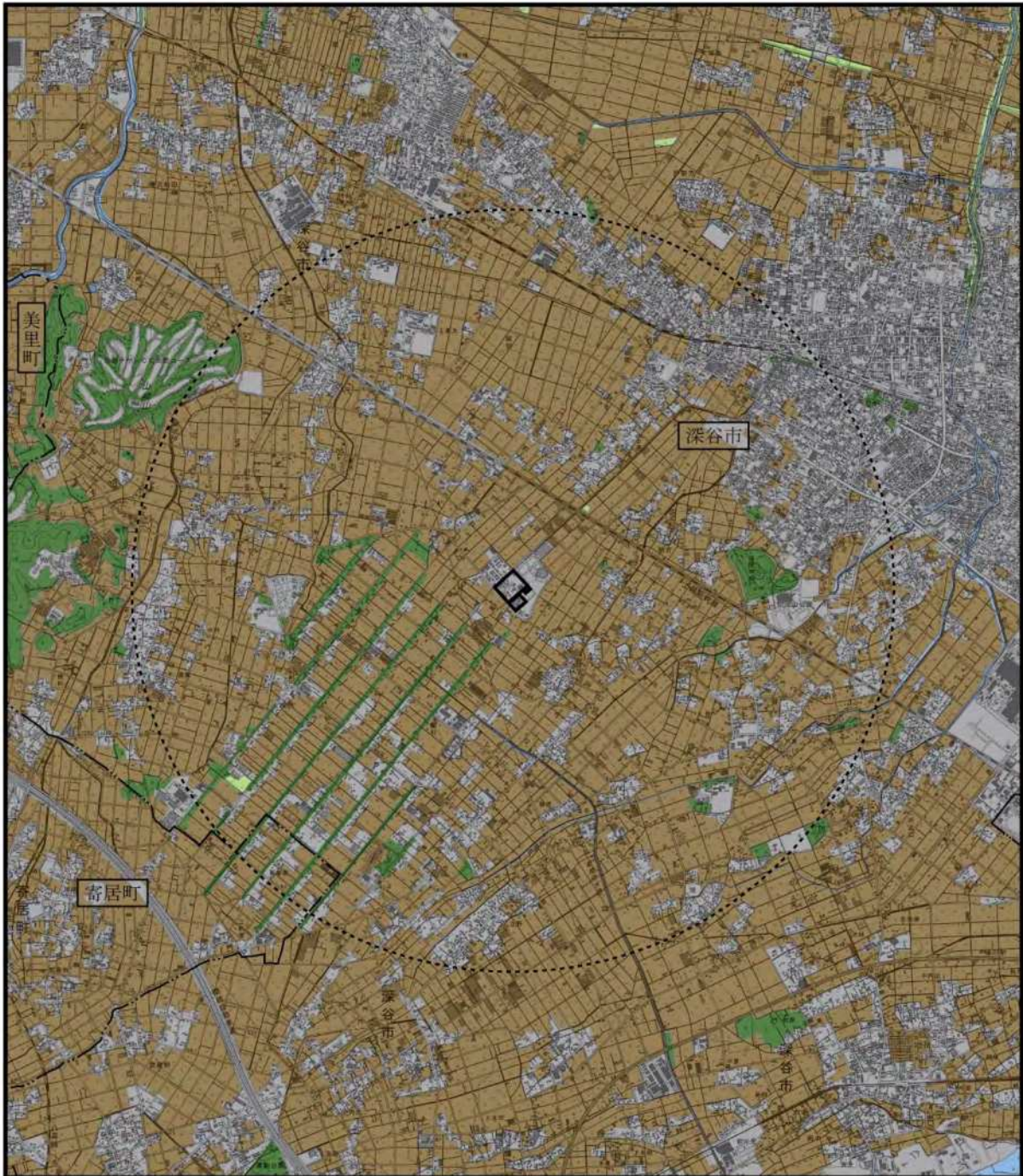
草地、耕作地、市街地では、生産者としてスベリヒユ、ホトケノザ、エノコログサ等の植物、一次消費者として、ノウサギ、アカネズミ等の哺乳類、スズメ、カワラヒワ等の鳥類、オンブバッタ、ハリカメムシ等の昆虫類、中位消費者として、アズマモグラ、アブラコウモリ等の哺乳類、ツバメ、ウグイス等の鳥類、ニホンアマガエル等の両生類、ヒガシニホントカゲ、シマヘビ等の爬虫類、キイロサシガメ、コアシナガバチ等の昆虫類、上位消費者として、タヌキ、イタチ等の哺乳類、チョウゲンボウ、ノスリ等の鳥類が生息する生態系が構築されているものと考えられる。

水辺植生及び解放水域では、生産者としてオギ、ヨシ、ガマ等の植物、一次消費者として、コガモ、カルガモ等の鳥類、フタスジモンカゲロウ、コガタシマトビケラ等の昆虫類、ヒメモノアラガイ等の貝類、中位消費者として、カワセミ等の鳥類、ニホンイシガメ等の爬虫類、ニホンアマガエル等の両生類、シオカラトンボ、アメンボ等の昆虫類、ドジョウ類、モツゴ等の魚類、上位消費者としてサギ類やミサゴ等の鳥類が生息する水域生態系が構築されているものと考えられる。

類型区分ごとの生態系の概要を表 3.2-35 に類型区分図を図 3.2-19 にそれぞれ示す。

表 3.2-35 類型区分毎の生態系の概要

環境類型区分	生産者	一時消費者	中位消費者	上位消費者
樹林地	<ul style="list-style-type: none"> ・ベニシダ ・スダジイ ・コナラ ・シロダモ ・ヒサカキ ・ヤブコウジ ・ジャノヒゲ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アカネズミ 【鳥類】 ・キジバト ・カケス ・シジュウカラ 【昆虫類】 ・アブラゼミ ・クサギカメムシ ・アオスジアゲハ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アズマモグラ ・アブラコウモリ 【鳥類】 ・ホトトギス ・ムクドリ ・ツグミ 【昆虫類】 ・ビロウドサシガメ ・アオオサムシ ・キイロスズメバチ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・タヌキ ・イタチ ・ハクビシン 【鳥類】 ・トビ ・ノスリ
草地 耕作地 市街地	<ul style="list-style-type: none"> ・スベリヒユ ・タガラシ ・ドクダミ ・ホトケノザ ・ハキダメギク ・メヒシバ ・イヌビエ ・エノコログサ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・ノウサギ ・アカネズミ ・カヤネズミ 【鳥類】 ・スズメ ・カワラヒワ ・ホオジロ 【昆虫類】 ・オンブバッタ ・ハリカメムシ ・ベニシジミ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・アズマモグラ ・アブラコウモリ 【鳥類】 ・ツバメ ・ウグイス ・オオヨシキリ 【両生類】 ・ニホンアマガエル 【爬虫類】 ・ヒガシニホントカゲ ・シマヘビ 【昆虫類】 ・キイロサシガメ ・コアシナガバチ 	<ul style="list-style-type: none"> 【哺乳類】 ・タヌキ ・イタチ ・ハクビシン 【鳥類】 ・チョウゲンボウ ・トビ ・ノスリ
水辺植生 及び 解放水域	<ul style="list-style-type: none"> ・オギ ・ヨシ ・マコモ ・ガマ 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥類】 ・コガモ ・カルガモ 【昆虫類】 ・フタスジモンカゲロウ ・コガタシマトビケラ 【底生動物】 ・ヒメモノアラガイ 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥類】 ・カワセミ 【爬虫類】 ・ニホンイシガメ 【両生類】 ・ニホンアマガエル ・トウキョウダルマガエル 【昆虫類】 ・シオカラトンボ ・アキアカネ ・アメンボ 【魚類】 ・ドジョウ類 ・ミナミメダカ ・モツゴ 	<ul style="list-style-type: none"> 【鳥類】 ・サギ類 ・ミサゴ

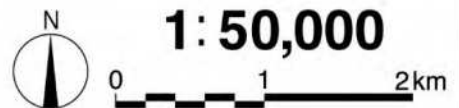


凡 例

- : 対象事業実施区域
- — — : 市町界
- - - - - : 調査範囲

- : 樹林地
- : 草地
- : 耕作地
- : 市街地
- : 水辺植生及び開放水域

図3.2-19 環境類型区分図



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(6) 景観、自然とのふれあいの場の状況

ア 景観

対象事業実施区域及びその周囲には、「第3回自然環境保全基礎調査 自然環境情報図 埼玉県」(平成元年、環境庁)によると自然景観資源は存在しない。

対象事業実施区域及びその周囲における景観資源の状況は、表 3.2-36 及び図 3.2-20 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、景観資源(建造物)が2箇所、ふるさとの緑の景観地が3箇所存在する。

また、文化財保護法(昭和25年5月、法律第214号)及び文化財保護条例等により指定されている景観資源となる史跡、名勝等は、「(7)文化財その他の生活環境の状況」の表 3.2-40 及び図 3.2-22 に示すとおりである。

なお、いずれの景観資源も対象事業実施区域周辺には存在しておらず、対象事業実施区域周辺は眺望対象にならないと考えられる。

表 3.2-36 景観資源の状況

No.	区分	名称	所在地
1	建築物	深谷駅	深谷市
2	建築物	藤橋藤三郎商店のレンガ造煙突	深谷市
3	ふるさとの緑の景観地	深谷市(旧深谷市)櫛挽ふるさとの緑の景観地	深谷市
4	ふるさとの緑の景観地	深谷市(旧岡部町)櫛挽ふるさとの緑の景観地	深谷市
5	ふるさとの緑の景観地	寄居町櫛挽ふるさとの緑の景観地	寄居町

出典：「埼玉県景観資源データベース」(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

「ふるさとの緑の景観地」(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)

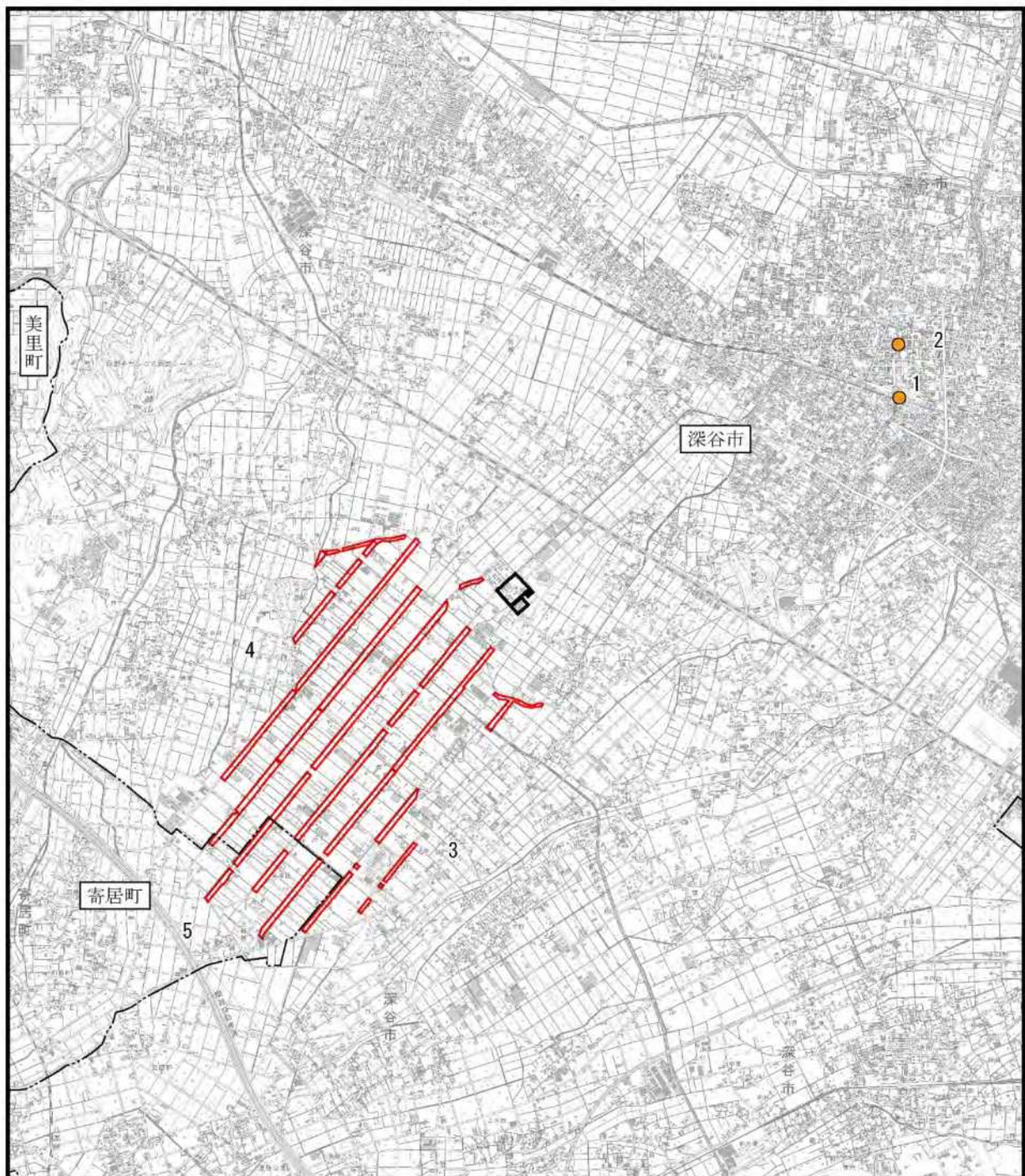
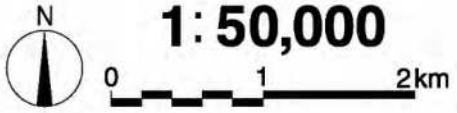


図3.2-20 景観資源の状況

- 凡 例**
- : 対象事業実施区域
 - : 市町界
 - : 景観資源
 - : ふるさとの緑の景観地

出典：「埼玉県景観資源データベース」
 (令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)
 「ふるさとの緑の景観地」(令和3年7月閲覧、埼玉県ホームページ)



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

イ 自然とのふれあいの場

(ア) 公園

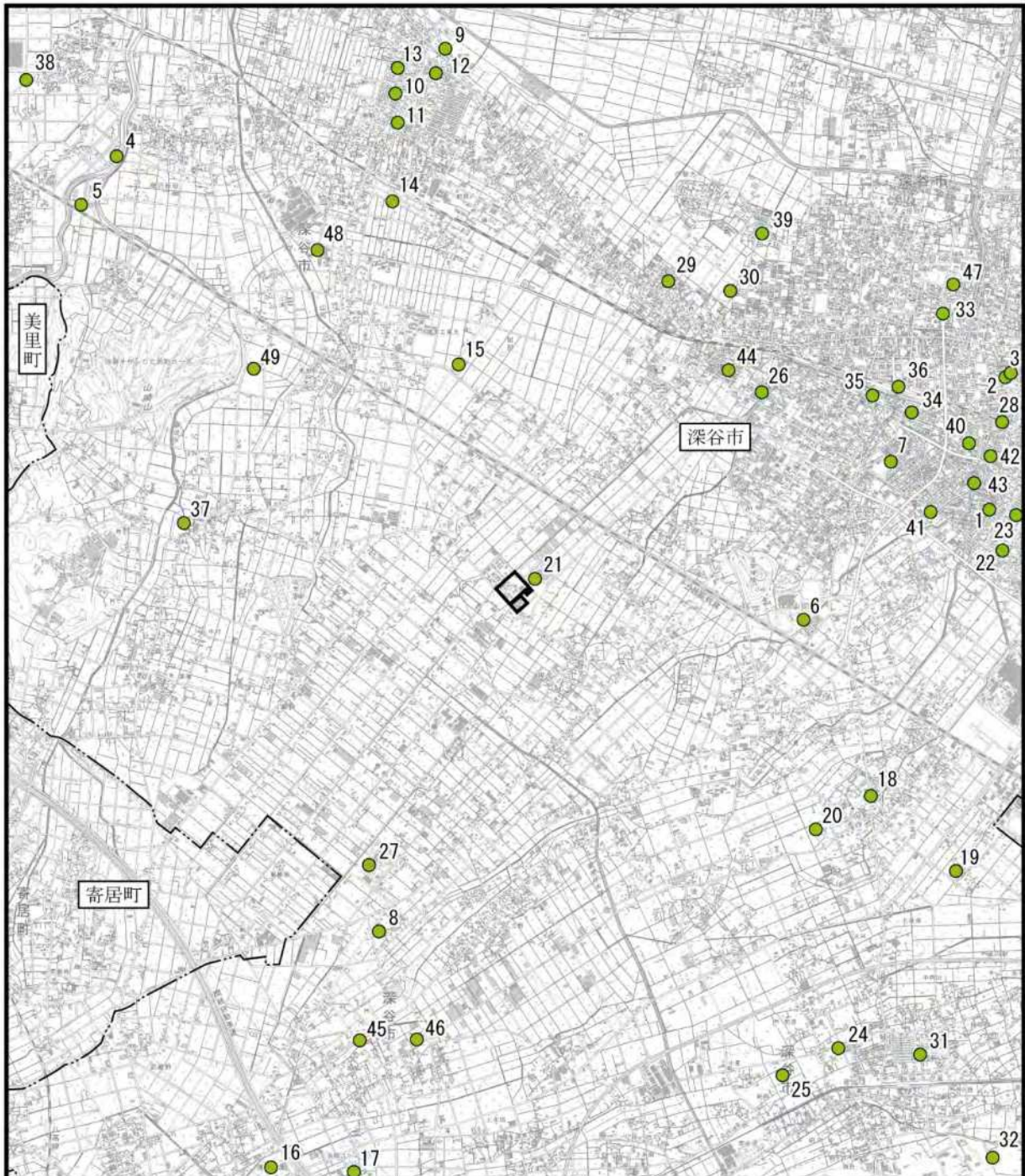
対象事業実施区域及びその周囲における自然とのふれあいの場の状況は、表 3.2-37 及び図 3.2-21(1)に示すとおりである。

対象事業実施区域近傍の公園としては、深谷グリーンパークが対象事業実施区域の北側に位置している。

表 3.2-37 自然とのふれあいの場の状況(公園)

No.	名称	No.	名称
1	秋元公園	26	桜の園公園
2	稲荷団地第1公園	27	ふかや緑の王国
3	稲荷団地第2公園	28	寿町公園
4	榛の森公園	29	西通公園
5	榛の森南公園	30	スマイルパーク
6	仙元山公園 (わんぱくらんど)	31	武川中央公園
7	泉台公園	32	川本天神グラウンド
8	杉石公園	33	大手口公園
9	栄太郎公園	34	下台池公園
10	熊野公園	35	瀧之宮公園
11	内出公園	36	青淵広場
12	里林公園	37	伊勢方公園
13	前屋敷公園	38	宮西公園
14	希望が岡公園 (北)	39	錦町公園
15	北原山公園	40	緑ヶ丘公園
16	花園総合運動公園	41	桜ヶ丘公園
17	花園史跡記念公園	42	空沢公園
18	折之口広場	43	組石公園
19	狭山公園	44	見晴公園
20	折之口ふれあい公園	45	植木の里公園
21	深谷グリーンパーク	46	植木の里東公園
22	上宿公園	47	深谷城址公園
23	上柴団地第3公園	48	岡部中央公園
24	ファミリータウン公園	49	岡部中央グラウンド
25	上原農村公園		

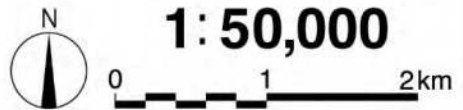
出典：「彩の国埼玉情報サイト さいたまナビ」(令和3年7月閲覧)



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 公園

図3.2-21(1) 自然とのふれあいの場(公園)



出典：「彩の国埼玉情報ナビ さいたまなび」（令和3年7月閲覧）

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(イ) その他

対象事業実施区域及びその周囲における、公園以外の自然とのふれあいの場の状況は、表 3.2-38、表 3.2-39 及び図 3.2-21 (2)に示すとおりである。

対象事業実施区域の北側に存在する唐沢川沿いは、桜の見どころである。

また、対象事業実施区域及びその周囲には、健康増進に向けたウォーキングコースが存在する。

表 3.2-38 自然とのふれあいの場の状況(その他)

No.	名称	出典資料
1	唐沢川	①,②
2	深谷駅	①
3	コスモス街道	①,②
4	櫛挽の桜	②
5	宝積寺	②
6	八幡大神社	②
7	上敷免彼岸花 (JAふかやカントリーエレベーター東側)	②

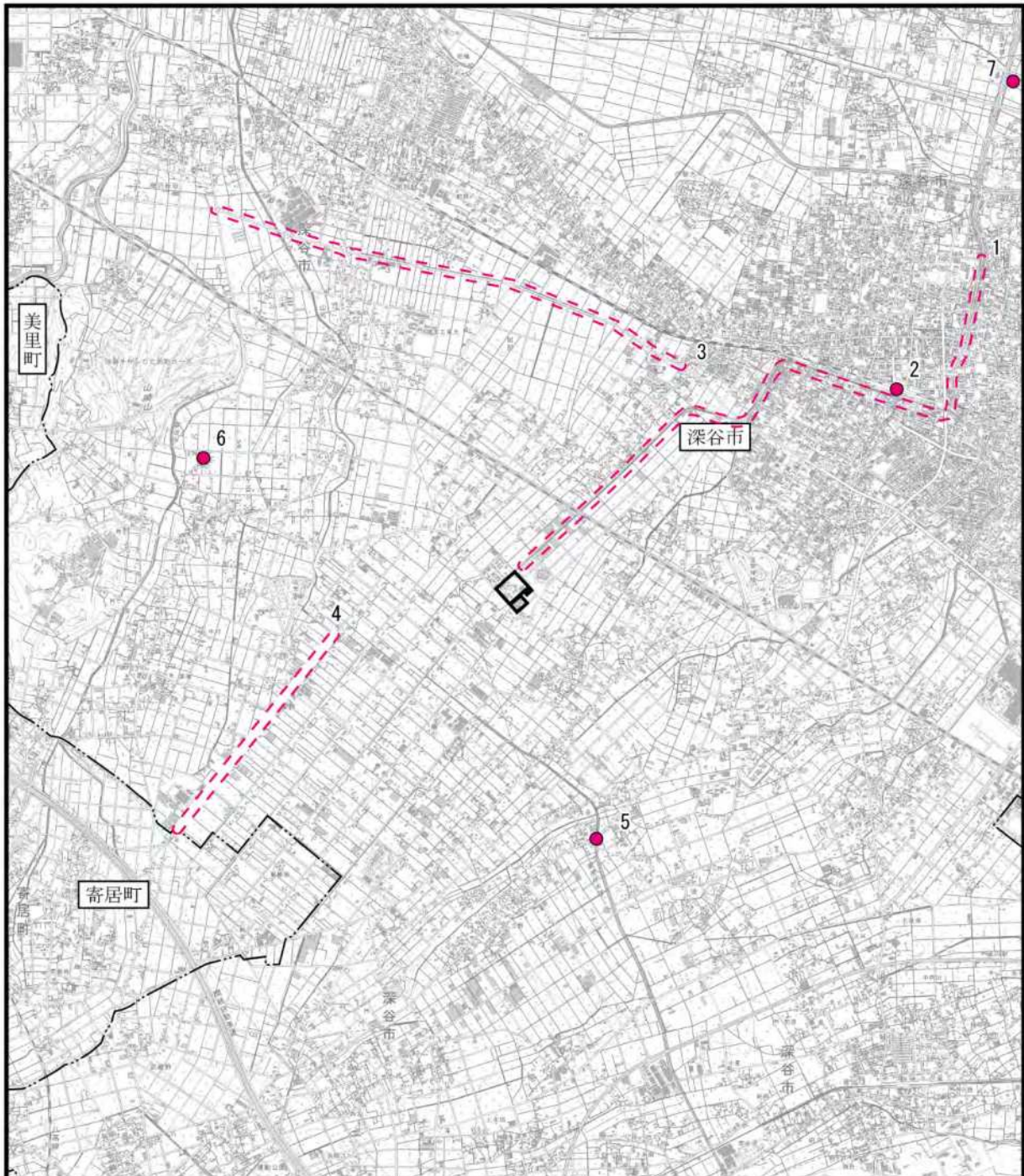
出典：①：「おでかけ深谷Do楽」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

②：「おいでよ深谷にガーデンシティFUKAYA」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

表 3.2-39 ウォーキングコースの状況





No.	名称	所在地
1	深谷コース	深谷市
2	藤沢コース	深谷市
3	幡羅コース	深谷市
4	南コース	深谷市
5	岡部コース	深谷市
6	川本コース	深谷市

出典：「健康づくり」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

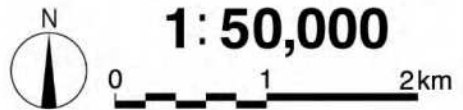


凡 例

図3.2-21(2) 自然とのふれあいの場(その他)

-  : 対象事業実施区域
-  : 市町界
-  : 自然とのふれあいの場
-  : 自然とのふれあいの場

出典：「おでかけ深谷 Do 楽」（令和 3 年 7 月閲覧、深谷市ホームページ）
「おいでよ深谷にガーデンシティ FUKAYA」（令和 3 年 7 月閲覧、深谷市ホームページ）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図 2 万 5 千分の 1 を使用したものである。

(7) 文化財その他の生活環境の状況

ア 文化財

(ア) 指定文化財

対象事業実施区域及びその周囲における指定文化財の状況は表 3.2-40 に、位置図は図 3.2-22 に示すとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲には、県指定の文化財が 8 件、深谷市指定の文化財が 29 件存在する。

なお、対象事業実施区域に最も近い文化財は、東方向約 1km に深谷市指定天然記念物の山桑が存在する。

表 3.2-40(1) 指定文化財の状況

No.	区分	種別	名称	所在地
1	国登録	有形文化財(建築物)	埼玉県立深谷商業高等学校 記念館	深谷市原郷78
2			大谷家住宅主屋	深谷市稲荷町
3			大谷家住宅洋館	
4			大谷家住宅本蔵	
5			大谷家住宅松庭湯	
6			大谷家住宅祠	
7			大谷家住宅中門及び塀	
8			大谷家住宅裏門及び塀	
9			大谷家住宅櫓空庵	
10			大谷家住宅米蔵	
11	県指定	史跡	岡部六弥太忠澄墓	深谷市普濟寺811-1
12			人見館跡	深谷市人見1515
13			旧北根代官所	深谷市北根260
14			桜ヶ丘組石遺跡	深谷市緑ヶ丘214-5
15			中宿古代倉庫群跡	深谷市岡3286-2外
16		旧跡	深谷城跡	深谷市仲町・本住町・ 田谷
17			榛沢六郎成清の供養塔	深谷市後榛沢437
18			岡部落陣屋跡	深谷市岡部1201ほか

注)No.は図3.2-22と対応している。

出典：「深谷市の歴史と文化財」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

「深谷市ガイドマップ」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

表 3.2-40(2) 指定文化財の状況

No.	区分	種別	名称	所在地
19	市指定	建造物	仁王門	深谷市稲荷町北9-25
20			薬師堂	
21			定門	
22			深谷本陣遺構 付棟札	深谷市深谷町
23			安部摂津守岡部陣屋旧地方通用門	深谷市西島町
24			旧深谷宿常夜燈	深谷市田所町・原郷
25			弘光寺客殿	深谷市針ヶ谷1324
26			大寄八幡大神社及び水屋	深谷市榛沢256
27			名勝	昌福寺庭園
28		史跡	深谷城外濠跡	深谷市萱場441
29			平忠度供養塔	深谷市人見1391
30			上杉房憲・憲盛墓	深谷市田谷308
31			上杉憲賢室高泰姫墓	深谷市内ヶ島644他
32			内ヶ島氏館跡	深谷市秋元町
33			秋元氏陣屋跡	深谷市本住町8-34
34			松平源七郎康直墓	深谷市人見1621-2
35			人見氏累代墓	深谷市田谷308
36			北亭為直墓	深谷市深谷町3-81
37			杉田因幡墓	深谷市稲荷町2-5-21
38			菊岡坊祖英塚	深谷市岡部786
39			岡部藩主歴代の墓附安部大蔵君碑	深谷市岡部
40			安部摂津守屋敷跡	深谷市本郷1749
41			旧地頭花井家歴代の墓	深谷市岡2006-1
42			お手長山古墳	深谷市普濟寺1536
43			前原愛宕山古墳	深谷市永田
44			永田の弁天池・代次郎ヶ池	深谷市岡部653
45	白蓮院の墓		深谷市岡部653	
46	天然記念物		山桑	深谷市檜合34
47		普濟寺のカヤの木	深谷市普濟寺973	

注)No.は図3.2-22と対応している。

出典：「深谷市の歴史と文化財」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

「深谷市ガイドマップ」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

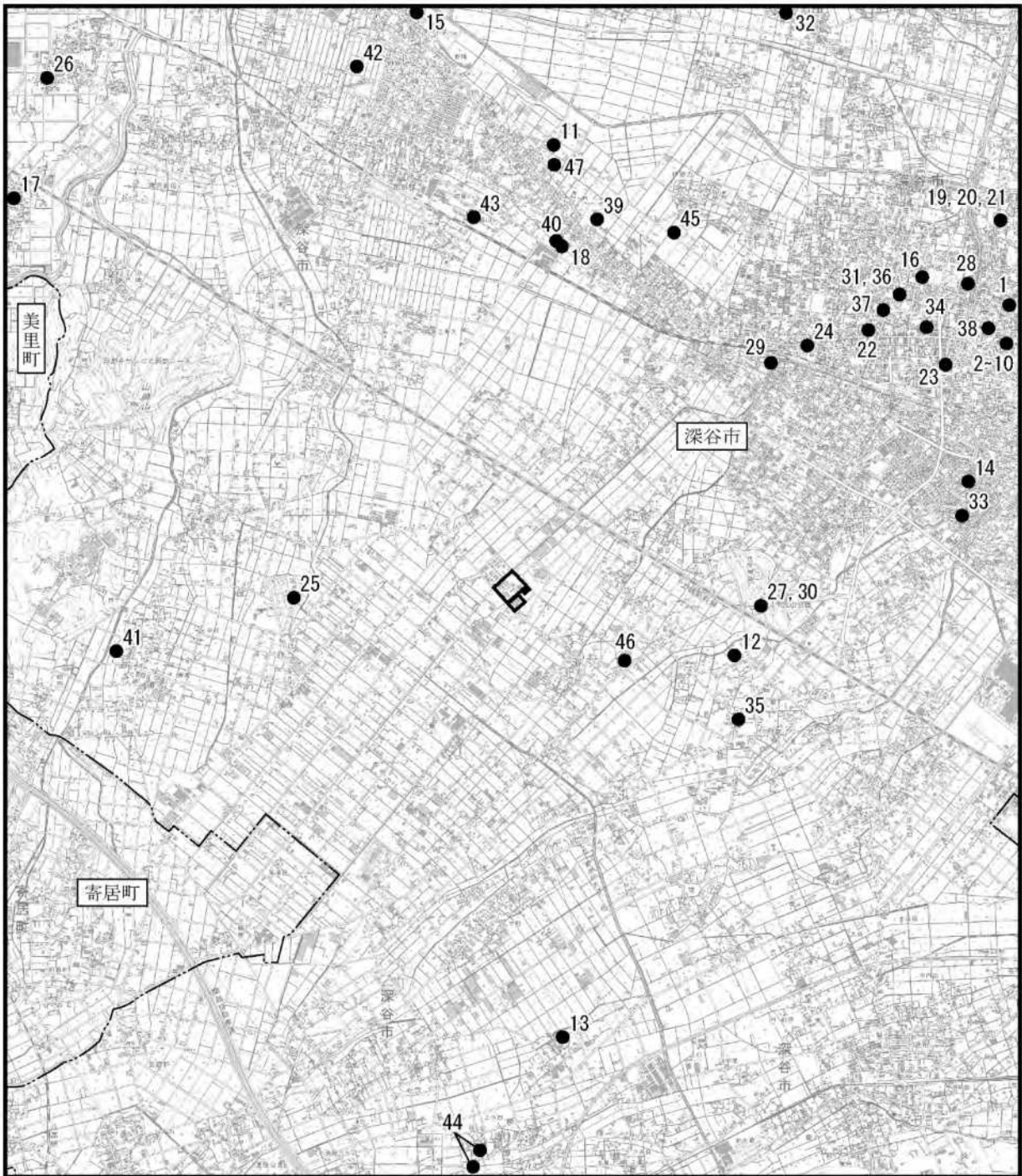


図3.2-22 指定文化財等位置図

凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 指定文化財等

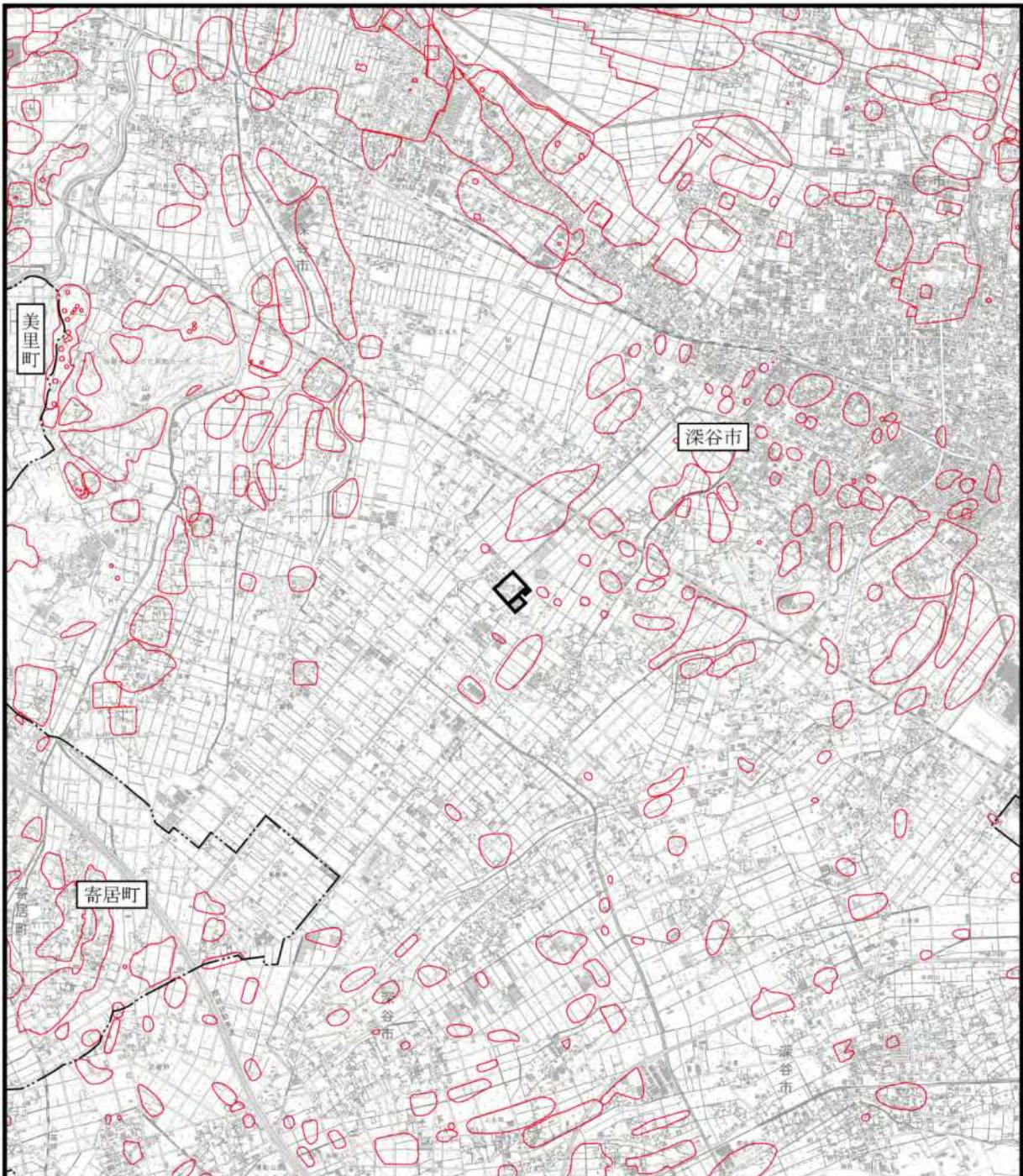
出典：「深谷市の歴史と文化財」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）
 「深谷市ガイドマップ」（令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ）

この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

(イ) 埋蔵文化財

対象事業実施区域及びその周囲における埋蔵文化財包蔵地の状況は、図 3.2-23 に示すとおりである。

対象事業実施区域には、埋蔵文化財包蔵地は存在しない。

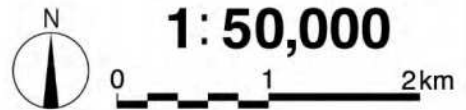


凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 埋蔵文化財包蔵地

図3.2-23 埋蔵文化財包蔵地の状況

出典：「深谷市遺跡地図」（2021年1月現在、深谷市）
「寄居町遺跡地図」（2021年1月現在、寄居町）



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

イ 温室効果ガス排出量

対象事業実施区域及びその周囲における平成 28 年度の二酸化炭素排出量は表 3.2-41 に、対象事業実施区域の位置する深谷市における二酸化炭素排出量の経年変化は図 3.2-24 に示すとおりである。

平成 28 年度の二酸化炭素排出量は、深谷市、寄居町ともに産業部門の割合が最も高く、次いで、運輸部門、家庭部門となっている。

対象事業実施区域の位置する深谷市の業務部門、業務部門、運輸部門及び廃棄物部門の二酸化炭素排出量は、平成 19 年度から平成 28 年度においてほぼ横ばいで推移している。産業部門は平成 19 年度からの平成 21 年度まで減少傾向で推移したが、平成 22 年度から平成 23 年度は増加傾向で推移している。平成 24 年度以降は減少傾向となっている。

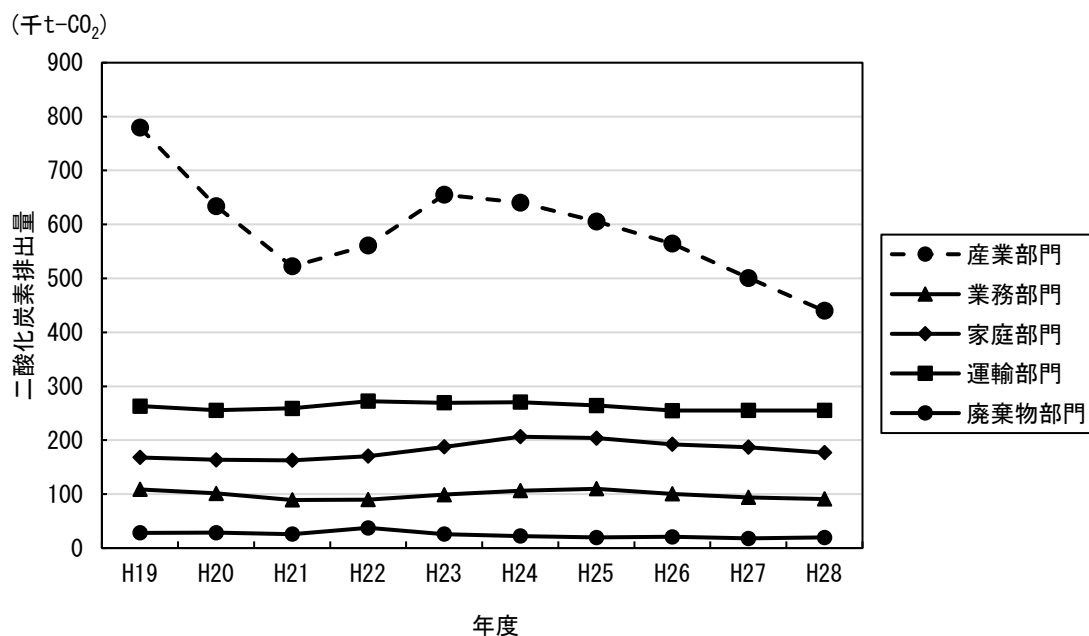
表 3.2-41 二酸化炭素量(平成28年度)

市町名	区分	排出量	
		千 t -CO ₂	%
深谷市	産業部門	440.0	44.8
	業務部門	91.1	9.3
	家庭部門	176.9	18.0
	運輸部門	255.3	26.0
	廃棄物部門	19.7	2.0
	合計	983.0	100
寄居町	産業部門	118.3	47.7
	業務部門	18.1	7.3
	家庭部門	41.5	16.7
	運輸部門	65.0	26.2
	廃棄物部門	5.0	2.0
	合計	247.9	100

注)端数処理を行っているため、排出量の合計が100%にならない場合がある。

出典：「市町村温室効果ガス排出量推計報告書2016年度」

(令和元年5月、埼玉県温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター)



出典：「市町村温室効果ガス排出量推計報告書2016年度」

(令和元年5月、埼玉県温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター)

図3.2-24 深谷市における二酸化炭素排出量の経年変化

ウ 一般環境中の放射性物質

対象事業実施区域及びその周囲における放射線量の測定結果は表 3.2-42 に、測定地点位置図は図 3.2-25 に示すとおりである。

対象事業実施区域に最も近い本郷小学校における令和 2 年度の測定結果は、0.027～0.031 μ Sv/h であった。

環境省では、「平成二十三年三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法」(平成 23 年 8 月、法律第 110 号)に基づく汚染状況重点地域の指定や、除染実施計画を策定する地域の要件を、0.23 μ Sv/h 以上の地域であることとしている。この基準と比較すると、対象事業実施区域及びその周囲において測定された放射線量は低い値である。

表 3.2-42(1) 放射線量の測定結果

No.	調査地点	測定結果(μSv/h)		測定箇所
		令和2年度		
		8月	2月	
1	深谷小学校	0.068	0.072	地上50cm
2	深谷西小学校	0.079	0.079	地上50cm
3	桜ヶ丘小学校	0.045	0.035	地上50cm
4	藤沢小学校	0.040	0.041	地上50cm
5	大寄小学校	0.038	0.038	地上50cm
6	岡部小学校	0.034	0.034	地上50cm
7	榛沢小学校	0.026	0.036	地上50cm
8	本郷小学校	0.031	0.027	地上50cm
9	岡部西小学校	0.033	0.042	地上50cm
10	川本北小学校	0.043	0.040	地上50cm
11	深谷中学校	0.065	0.055	地上1m
12	南中学校	0.032	0.029	地上1m
13	藤沢中学校	0.035	0.043	地上1m
14	岡部中学校	0.037	0.048	地上1m
15	深谷幼稚園	0.065	0.043	地上50cm
16	深谷西幼稚園	0.051	0.057	地上50cm
17	桜ヶ丘幼稚園	0.054	0.039	地上50cm
18	藤沢幼稚園	0.078	0.081	地上50cm
19	おかべ幼稚園	0.035	0.037	地上50cm

注)No.は図3.2-25の番号と対応している。

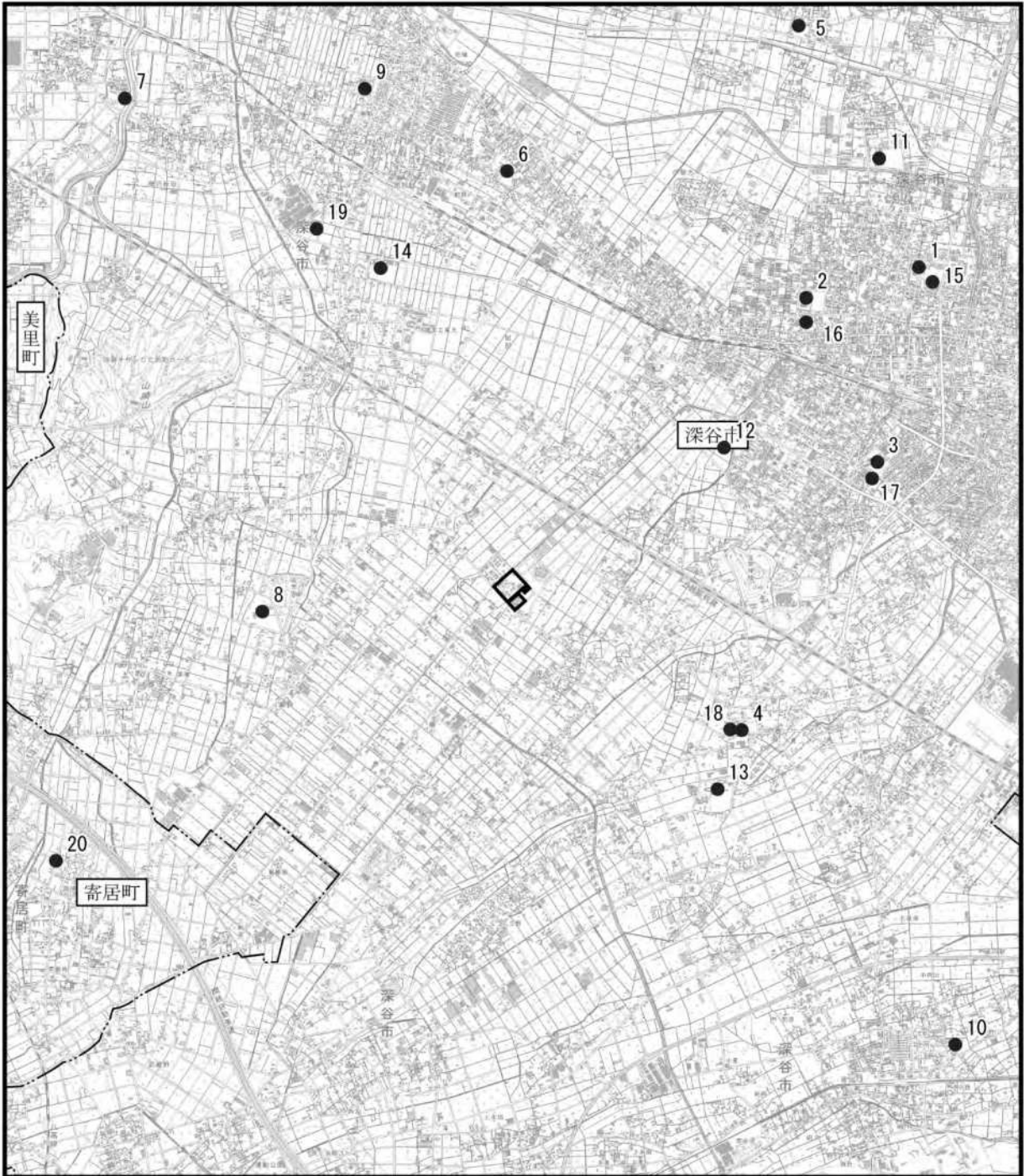
出典：「平成23年11月以降の放射線量測定及び除染の結果」(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

表 3.2-42(2) 放射線量の測定結果

No.	調査地点	測定結果(μSv/h)		測定箇所
		令和2年度		
		9月	3月	
20	用土8区公会堂	0.056	0.046	-

注)No.は図3.2-25に対応している。

出典：「放射性物質等の検査結果」(令和3年7月閲覧、寄居町ホームページ)



凡 例

- : 対象事業実施区域
- : 市町界
- : 空間放射線量調査地点

図3.2-25 放射線量測定地点位置図

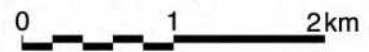
出典：「平成23年11月以降の放射線量測定及び除染の結果」

(令和3年7月閲覧、深谷市ホームページ)

「放射性物質等の検査結果」(令和3年7月閲覧、寄居町ホームページ)



1:50,000



この地図は、国土地理院発行の電子地形図2万5千分の1を使用したものである。

エ 公害苦情の状況

対象事業実施区域の位置する深谷市における平成 27 年度から令和元年度の公害に関する苦情件数は、表 3.2-43 及び図 3.2-26 に示すとおりである。

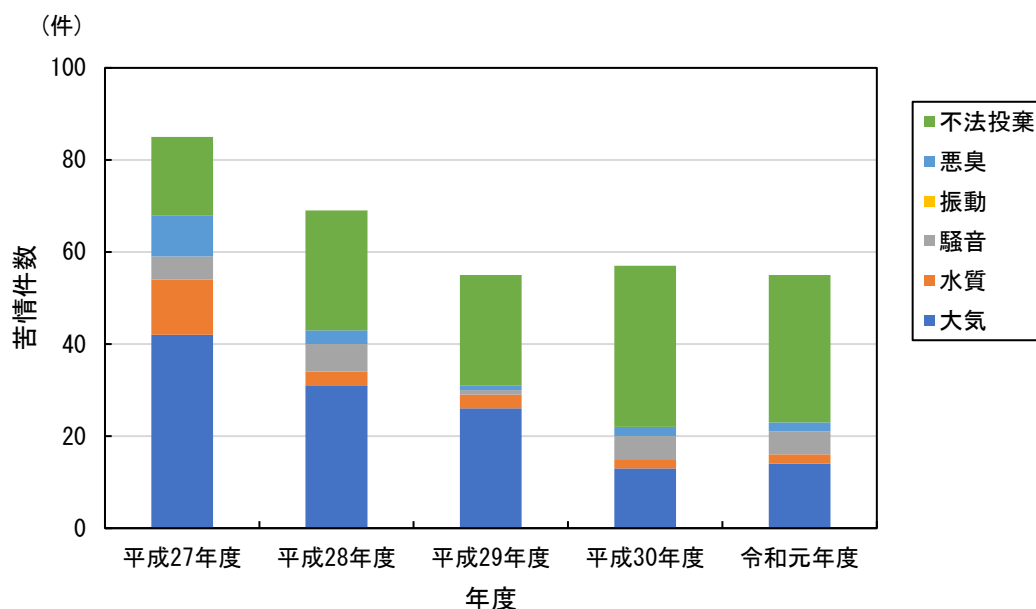
平成 27 年度以降、公害苦情件数は減少傾向にある。

令和元年度の公害苦情の総数は 55 件であり、不法投棄に関する苦情が 32 件と最も多くなっている。

表 3.2-43 公害苦情件数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
大気	42	31	26	13	14
水質	12	3	3	2	2
騒音	5	6	1	5	5
振動	0	0	0	0	0
悪臭	9	3	1	2	2
不法投棄	17	26	24	35	32
合計	85	69	55	57	55

出典：「令和元年度 深谷市の環境」（令和2年10月、深谷市環境水道部環境課）



出典：「令和元年度 深谷市の環境」（令和2年10月、深谷市環境水道部環境課）

図3.2-26 公害苦情件数の推移